

新上小阪遺跡

府営東大阪新上小阪住宅建替（第1期）
地下雨水貯留槽工事に伴う調査

2006年3月

大阪府教育委員会

新上小阪遺跡

府営東大阪新上小阪住宅建替（第1期）
地下雨水貯留槽工事に伴う調査

2006年3月

大阪府教育委員会



第4遺構面D(西から)



第4遺構面A (西から)

はじめに

大阪府東大阪市・八尾市を中心とした河内平野南半部には奈良・平安時代の遺跡が点在する。瓜生堂遺跡には建物群、葦振遺跡には建物群や瓦の出土がある。そして、東側を京から南河内へと南北に貫く河内街道と楠根川沿いには若江寺や西郡廃寺、巨摩廃寺といった寺院が並んでいた。

こうした歴史環境の中、平成11年度に東大阪市新上小阪の低湿地においても、古代集落が存在することを確認した。府営住宅の建替え第1期工事に伴った平成13年度の調査ではその奈良・平安時代の屋敷地の具体的な姿がより明らかになった。その後、住宅本体建設に伴った南北の地下雨水貯留槽が設置されることになり、平成15年度に発掘調査したのが本報告分である。

その結果、掘立柱建物群は大きく3期に分けることができることから、屋敷地の変遷が追えるとともに、その周囲の西・南・北に区画があることが判明した。

現在、第2期工事に伴う発掘調査が財団法人 大阪府文化財センターによって実施されており、その東側の様相も明らかになりつつある。低湿地の微高地を中心に居を構え、周囲に耕作地が展開するという構造は、河内平野開発の一端を垣間見る一つのモデルとなるものである。また、この時期に限らず、弥生時代以降の平野灌漑の歴史背景を考える上でも重要な意味をもつ遺跡である。今後、調査が周辺域に広がることでより鮮明な具体像を描くことができるよう期待したい。

調査にあたっては、地元東大阪市教育委員会や財団法人 大阪府文化財センター、大阪府建築都市部、地元自治会各位をはじめとする多くの関係者の方々にご協力いただいた。深く感謝するとともに、今後ともこの遺跡における文化財保護行政にご理解、ご協力と上記のような歴史的環境を地域に生かすことで保護・保全・活用に向かうようお願いする次第である。

平成18年3月

大阪府教育委員会文化財保護課長
丹上 務

例 言

1. 本書は、大阪府教育委員会が、大阪府建築都市部の依頼を受け、府営住宅（建替）建設工事に伴い、平成15年度に実施した東大阪市新上小阪所在の新上小阪遺跡の発掘調査報告書である。調査番号は03022である。
2. 調査は、文化財保護課 調査第一グループ 総括主査 岩崎二郎、主査 一瀬和夫が担当した。
3. 調査に要した経費は、大阪府建築都市部が負担した。
4. 調査の実施にあたっては、東大阪市教育委員会、大阪府建築都市部をはじめとする諸機関、関係諸氏の協力を得た。
5. 本書の編集は、一瀬が担当し、執筆は調査担当者他、参加者が分担した。
6. 本書に使用した写真測量については、和歌山航測株式会社に委託した。
7. 本報告は、300部を作成し、一部あたりの単価は1,848円である。

目 次

巻頭カラー図版

はしがき

例言

目次

第1章 調査に至る経過	1
第2章 検出遺構	3
第1節 基本層序	3
第2節 遺構面の状況	9
第3章 出土遺物	22
第1節 1区出土遺物	22
第2節 2区出土遺物	32
第4章 まとめ	46

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

図1 調査位置	2
図2 1区 南壁東西上層断面	5・6
図3 2区 南壁東西上層断面(東洋)	7・8
図4 1区 第3遺構面C・D、第4遺構面A平面	11
図5 1区 第4遺構面B・C・E平面	12
図6 1区 第4遺構面D平面	13・14
図7 1区 第5遺構面B・C・D平面	15

図8	2区	第1遺構面、第2遺構面A、第3遺構面A平面	16
図9	2区	第3遺構面B・C・D平面	17
図10	2区	第3遺構面E・F、第4遺構面B平面	18
図11	2区	第4遺構面A平面	19・20
図12	2区	第4遺構面C、第5遺構面平面	21
図13		出土瓦他	22
図14	1区	出土須恵器 杯・高杯・平瓶・甕(表1)	23
図15	1区	出土須恵器 壺(表2)	25
図16	1区	出土土師器 杯・皿(表3)	26
図17	1区	出土土師器 甕・鉢(表4)	28
図18	1区	出土土師器 鈎甕・土釜・杯・黑色土器(表5)	30
図19	1区	出土土師器 高杯、陶器(表6)	31
図20	2区	出土須恵器 杯・壺蓋(表7)	34
図21	2区	出土須恵器 甕・壺(表8)	36
図22	2区	出土土師器 杯(表9)	37
図23	2区	出土土師器 杯・杯蓋・皿(表10)	39
図24	2区	出土土師器 高杯・黑色土器・瓦器・陶磁器(表11)	41
図25	2区	出土土師器 鈎甕・土釜(表12)	42
図26	2区	出土土師器 甕(表13)	43
図27	2区	出土土師器 鉢(表14)	45
図28		古代屋敷地範囲の変遷	47・48

表 目 次

表1	1区	出土須恵器 杯・高杯・平瓶・甕	24
表2	1区	出土須恵器 壺	25
表3	1区	出土土師器 杯・皿	27
表4	1区	出土土師器 甕・鉢	29
表5	1区	出土土師器 鈎甕・土釜・杯・黑色土器	30
表6	1区	出土土師器 高杯、陶器	31
表7	2区	出土須恵器 杯・壺蓋	35
表8	2区	出土須恵器 甕・壺	36
表9	2区	出土土師器 杯	38
表10	2区	出土土師器 杯・杯蓋・皿	40

表11	2区	出土土師器	高杯・黒色土器・瓦器・陶磁器	41
表12	2区	出土土師器	鍔甕・土釜	42
表13	2区	出土土師器	甕	44
表14	2区	出土土師器	鉢	45

図 版 目 次

巻頭カラー図版1	1区	第4遺構面D
巻頭カラー図版2	2区	第4遺構面A
図版1	1区	南壁中央 第3遺構面C 第3遺構面D
図版2	1区	第3遺構面D 第4遺構面A 第4遺構面B・土坑38
図版3	1区	第4遺構面B掘立柱列 第4遺構面B
図版4	1区	第4遺構面B 第4遺構面D
図版5	1区	第4遺構面D 第4遺構面B SE22
図版6	1区	第4遺構面D
図版7	1区	第4遺構面C SD63 第4遺構面F 第5遺構面A
図版8	1区	第5遺構面B足跡 第5遺構面B西半 第5遺構面B東側鋤跡
図版9	1区	第5遺構面C中央 第5遺構面C 第5遺構面D西側
図版10	1・2区	1区第5遺構面D流水層 2区南壁中央 第1遺構面
図版11	2区	第2遺構面A 第3遺構面A SE120 木樋暗渠
図版12	2区	第3遺構面B 第3遺構面C 第3遺構面C下面
図版13	2区	第3遺構面C下面下層 第3遺構面C下面東側下層 第4遺構面A東半検出状況
図版14	2区	第4遺構面A
図版15	2区	第4遺構面A
図版16	2区	第4遺構面A東側 第4遺構面A中央
図版17	2区	第4遺構面A西側 第4遺構面A
図版18	2区	第4遺構面A 第4遺構面A中央 掘立柱建物上面 掘立柱建物掘下げ
図版19	2区	第4遺構面A東側 東西溝 第4遺構面B東側 掘立柱建物 掘立柱礎板
図版20	2区	第4遺構面B中央 掘立柱内遺物出土状況 第4遺構面A東洋中央 掘立柱断割り 状況と第4遺構面B 第4遺構面B
図版21	2区	第4遺構面B 第4遺構面C 第5遺構面

第1章 調査に至る経過

本調査区は東大阪市新上小阪の府営東大阪新上小阪住宅内にあり、建替えに伴って平成11年度に佐久間貴士を担当とし、試掘調査を実施した(調査番号99022)(注1)。

第1期工事用地の東端中央を5×5mの調査区を設けて調査を行い、古墳時代から鎌倉時代にかけての瓦器・土師器・黒色土器・須恵器、瓦などが出土した。このことにより、新たな遺跡であることを確認することになった。また、これより下層のT.P.1.90m付近においても、十数片の骨を包含した弥生時代後期相当層も認められた。

この遺跡のある河内平野南半部には古代集落が点在する。その古代には若江郡錦織郷に属したであろうこの周囲の状況を見ると、北々東の瓜生堂遺跡には8世紀の掘立柱建物群。南方の美園遺跡には7世紀代の遺物の出土、南東の菅振遺跡には8世紀の掘立柱建物群の検出や瓦の出土がある。これらの遺跡は、南の小阪合・東郷遺跡から現・楠根川に併行して流れたであろう流路に沿って連なっていたと考えられる。一方、それら楠根川沿いと東側を南北に貫く河内街道とに沿って若江寺や西郡麩寺、巨摩麩寺といった寺院もまた並んでいたことになる。

本調査地点はそうした主幹道がはしる微高地からは西へと下る傾斜面上に立地する。そのため、基本的には粘土堆積が多い地点である。その中であって、南東から北西に砂層の発達を伴った微高地がわずかに張り出す部分がある。それが、府営東大阪新上小阪住宅敷地の第1期建替工事にあたる北西部分に認められ、これを中心として遺跡が展開することが上記の結果から予期されたのである。

このことから追って、平成13年度に、本府教育委員会は高層住宅本体の基礎掘削部分について、全面発掘調査を実施する必要が生じ、財団法人 大阪府文化財調査研究センターに指示することになった。

その調査の結果、試掘調査で確認した古代の掘立柱建物・溜め井状遺構といった表層部分の遺構面だけでなく、それよりさかのぼる弥生時代中期前半の落込みや祭祀的な土坑・掘立柱建物、古墳時代前期の掘立柱建物などといった遺構の検出もあり、各時代の遺構面が複合する遺跡であることが明らかとなった(注2)。

この調査後、第1期高層住宅部分本体建設中、これに伴った南北それぞれ1つずつ地下雨水貯留槽が設置されることになり、地下遺構を損壊する可能性が生じたため、工事と併行して貯留槽工事の掘削が及ぶ部分までの追加調査を本府教育委員会が行うことになったのが、本報告分の調査である。

調査は、南側貯留槽部分を1区、北側のを2区として実施した。(一瀬)

(注1) 大阪府教育委員会 2001 『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報』4

(注2) 財団法人 大阪府文化財センター 2003 『新上小阪遺跡—大阪府営東大阪上小阪(第1期)住宅(建て替え)建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』財団法人 大阪府文化財センター調査報告書 第94集

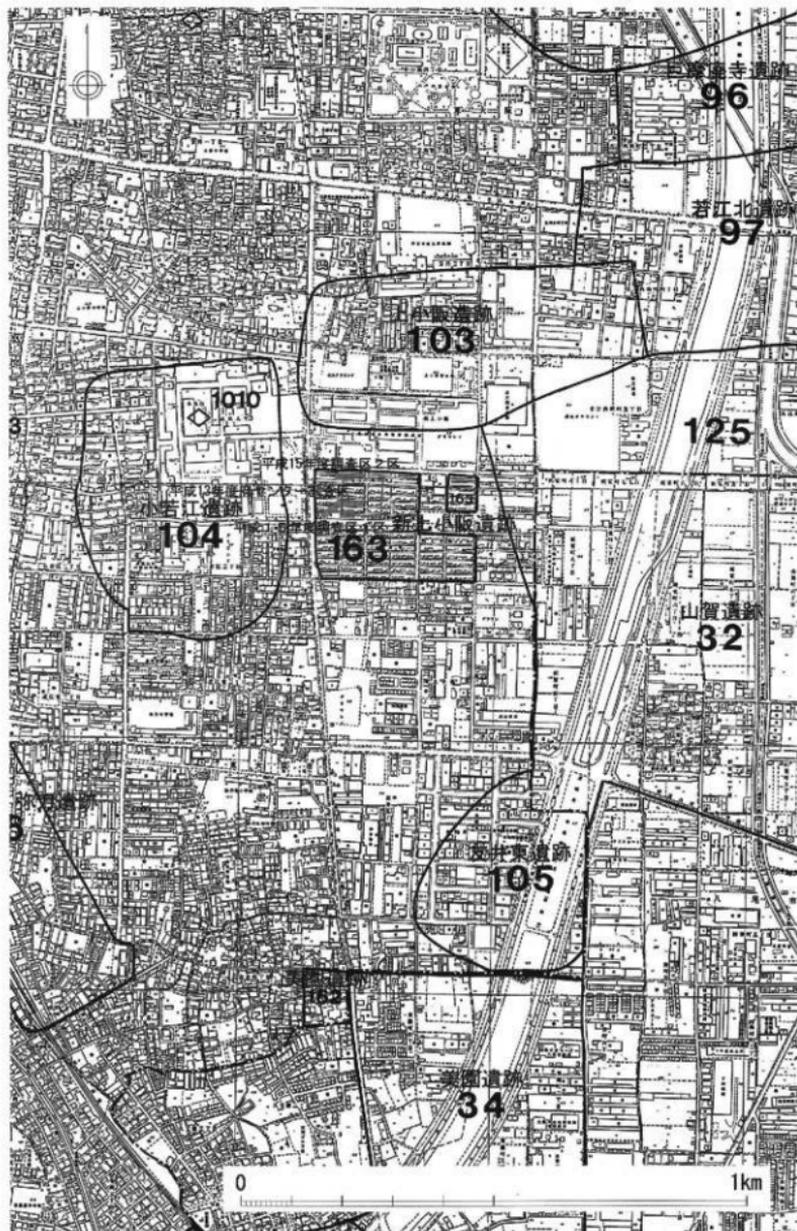


図1 調査位置

第2章 検出遺構

第1節 基本層序

1.1区

1区の現地表はT.P.4.3mで、地表下0.7mまで盛土、下に旧耕土があり西に下降する(第2遺構面)。その下は調査区南東に島島の高まりがある。その部分は暗黄灰・褐色の粘質シルト・粗砂を中心とし、基本的には3層からなる盛土が0.5mあり、低いところでは0.1mの厚さとなる(第3遺構面)。その下は灰オリーブ粘・砂質シルトを基本とし、下ほど砂質がかり、主に調査区南側で発達する(第4遺構面A・B)。黄褐色粘質シルトを基本とし、これも下部に移る程、砂質がかり(第4遺構面C・D)。第4層は0.1~0.5mの厚さがあり、相対に南・西側部分が厚くなり、T.P.3.0mを前後する。その下は河川状堆積となり、上部は0.3~0.5mの厚さの灰・灰オリーブ系の色調に粘質シルト~細砂主体の土質となる。下部はオリーブ黒の粘質シルト~微砂が主で、足跡がよく残る(第5遺構面)。これより下は、細砂をはさみ、灰色を基本とした粘質シルトの上部からT.P.2.0m前後に至って粗砂となる。

各遺構面はセンター調査分の第1~5面に概ね相当するが、主に東西方向で細分でき、遺構面の数に違いがある。また、これより下は貯水槽の掘削深度がおおむね地表下2.2m、T.P.2.0mをであり、第5遺構面を4細分して調査を終了している。

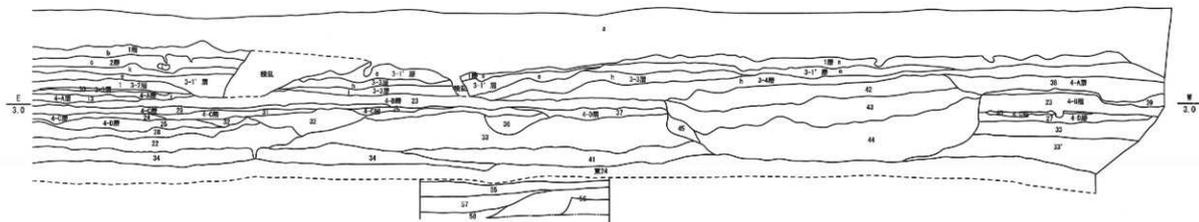
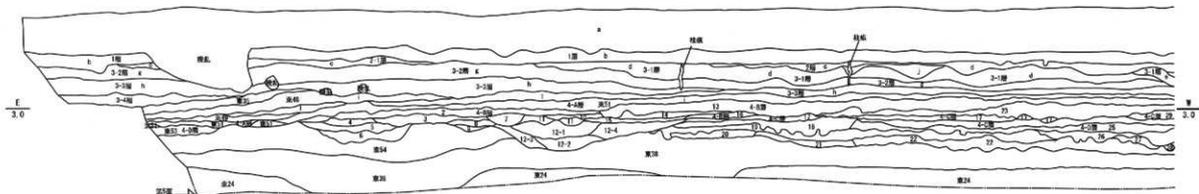
2.2区

1区は第5層砂が微高地状に北西方向に張り出すのに対して、相対的に北西に向かって低くなっている。これに対して、2区は東側北方向に張り出し、その周囲は粘土が多い。2区の現地表はT.P.3.7mで、地表下0.5m前後が造成盛土である。1区に比べ、既設の建物基礎と水路の攪乱がはなはだしい。主に中央北よりに東西方向、西よりに南北方向の水路を中心として下部は損壊を受ける(第1遺構面)。この東西水路から北側は相対的に低くなっており、この高低差、これはおそらく下部の砂と粘土の構成層に由来するのであろうが、基本的には第4遺構面の区画からもたらされたものと考えられる。そうした盛土下には旧耕土があり、南側の中央から西が高く、周囲に下降し、島島を形成する(第2遺構面)。この面の下では、灰オリーブ粘土系の旧耕作土面が少なくとも7枚残り、特に、北半では東西方向を主とした畦畔及び、北へ降る段差が残り、1区と様相を異にして水田域が多く占める。島島状の耕作面を中心として第3遺構面は7面に細分して、調査することになった。

その下は灰オリーブ粘・砂質シルトを基本とし、下ほど砂質がかり、1区と同様、主に調査区南側で発達する(第4遺構面A・B)。南側中央のA下面は、遺物を大量に含んだ暗緑灰色粘土を敷きならして整地しているのが特徴である。その下はにぶい黄褐色微砂・粘質シルトを基本と

し、これも下部に移る程、砂質がかかる（第4遺構面C）。下層はT.P.2.2mを前後するところまで河川状堆積となる（第5遺構面）灰オリーブ系の色調に粘質シルト～細砂主体の上質となり、下ほど褐色がかかる。下部はオリーブ黒の粘質シルト～微砂が主である。これより下は、調査掘削は行っていないが、1区と層順的には同様な傾向を示す。

（一瀬）



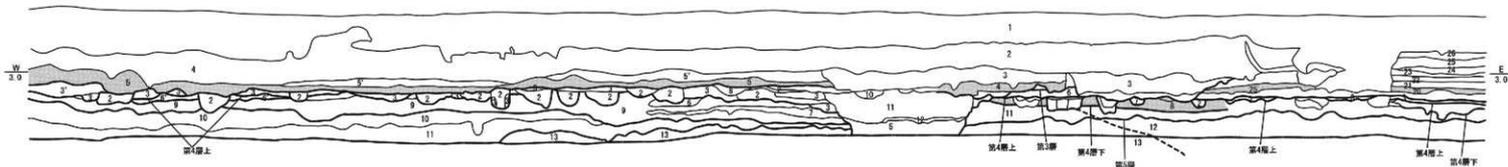
- a におい質塊～灰白色粘質砂～砂質シルト。粘塵砂～粘塵砂多く含む。上部はやや灰白色で大粒の砂粒より多く含む
- b におい質塊～灰白色粘質シルト。粘塵砂多く含む
- c オリーブ質塊～オリーブ質粘質シルト～粘塵砂。粘塵砂～粘塵砂多く含む
- d 灰白色粘質シルト～粘塵砂。粘塵砂～粘塵砂多く含む
- e 灰質～灰黄色粘質シルト～粘塵砂。hより粘質粘質シルト多く含む
- f hより粘質粘質シルト
- g 黄褐色～灰黄色粘質シルト～粘塵砂。粘塵砂～粘塵砂多く含む
- h 灰白色粘質シルト。粘塵砂～粘塵砂多く含む
- i におい質塊～灰白色粘質シルト。粘塵砂多く含む
- k 灰白色粘質シルト。粘塵砂多く含む
- 1 オリーブ粘質シルト。粘塵砂に富み、粘塵砂含む
- 2 オリーブ粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 3 オリーブ粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 4 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 5 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 6 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 7 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 8 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 9 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 10 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 11 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 12 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 13 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 14 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 15 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 16 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 17 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 18 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 19 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 20 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 21 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 22 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 23 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 24 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 25 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 26 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 27 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 28 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む
- 29 粘質粘質シルト。粘塵砂多く含む、粘塵砂含む

- 10 粘質粘質シルト～粘塵砂
- 11 粘質粘質シルト～粘塵砂多く含む。Fe20%以上
- 12 粘質粘質シルト～粘塵砂
- 13 粘質粘質シルト～粘塵砂
- 14 粘質粘質シルト～粘塵砂
- 15 粘質粘質シルト～粘塵砂
- 16 粘質粘質シルト～粘塵砂
- 17 粘質粘質シルト～粘塵砂
- 18 粘質粘質シルト～粘塵砂
- 19 粘質粘質シルト～粘塵砂
- 20 粘質粘質シルト～粘塵砂
- 21 粘質粘質シルト～粘塵砂
- 22 粘質粘質シルト～粘塵砂
- 23 粘質粘質シルト～粘塵砂
- 24 粘質粘質シルト～粘塵砂
- 25 粘質粘質シルト～粘塵砂
- 26 粘質粘質シルト～粘塵砂
- 27 粘質粘質シルト～粘塵砂
- 28 粘質粘質シルト～粘塵砂
- 29 粘質粘質シルト～粘塵砂

- 30 粘質粘質シルト。粘塵砂にFe
- 31 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 32 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 33 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 34 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 35 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 36 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 37 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 38 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 39 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 40 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 41 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 42 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 43 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 44 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 45 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 46 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 47 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 48 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 49 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 50 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 51 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 52 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 53 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 54 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 55 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%
- 56 粘質粘質シルト～粘塵砂。Fe20%



図2 1区 南壁東西土層断面



- 1 盛土
- 2 灰オリーブ色粘土シルト
- 3 暗オリーブ灰色粘土やや微砂 鉄分含む。
- 4 暗緑灰色粘土微砂
- 5 灰オリーブ色粘土砂 マンガン含む。
- 6 暗灰黄色粘土 マンガン含む。
- 7 灰オリーブ色砂
- 8 暗緑灰色粘土 角閃含む。
- 9 灰オリーブ色粘土微砂
- 10 オリーブ褐色砂 粘土含む。僅かに粗砂。
- 11 オリーブ黒色粘土やや微砂
- 12 灰オリーブ色粘土微砂

- 1 灰オリーブ色シルトにやや粘土混る。多量の鉄分含む。
- 2 灰オリーブ色粘土にシルト含む。多量に鉄分含む。
- 3 暗オリーブ灰色粘土にやや微砂混る。鉄分含む。
- 4 暗緑灰色粘土に微砂混る。所々に鉄分含む。
- 5 暗オリーブ灰色粘土
- 6 暗オリーブ色砂利
- 7 灰オリーブ色砂
- 8 暗緑灰色粘土 角閃含む
- 9 暗緑灰色粘土
- 10 灰オリーブ色粘土
- 11 灰オリーブ色粘土 やや微砂含む
- 12 灰オリーブ色粘土に微砂混る
- 13 灰オリーブ色粘土に微砂混る
- 14 灰オリーブ色シルトに粘土含む
- 15 灰オリーブ色粘土にシルト混る
- 16 オリーブ灰色粗砂
- 17 灰黄灰色粘土 やや微砂混る
- 18 灰オリーブ色粘土 微砂混る
- 19 オリーブ黒色粘土 煤土含む
- 20 灰オリーブ色粘土
- 21 暗オリーブ色粘土 ややシルト含む
- 22 暗オリーブ色粘土にシルト含む
- 23 灰オリーブ色粘土にややシルト含む
- 24 灰オリーブ色粘土にややシルト含む
- 25 灰オリーブ色粘土にシルト含む
- 26 灰オリーブ色粘土にシルト含む

図3 2区 南壁東西土層断面(東半)

第2節 遺構面の状況

1.1区

この調査区の第1遺構面は、北側、東西方向に構造物があった。第2遺構面は、それを境に溜池状のものが存在し、北半部が落込み、西側でも一段落込む状況であった。第3遺構面は島島が南東部分から順次、拡大されていく。

第3遺構面C 東西溝とそれに沿って畦畔が伴い、南西側には南北方向の小溝があった。

第3遺構面D 中央に幅3.5mほどの東西溝が、その南側には併行して小溝があった。

第4遺構面A 第3遺構面とは異なり、北側が高く、段をもつ。

第4遺構面B 高くなった北側を中心に整地層が見られ、土坑、掘立柱があった。南半には牛の足跡が顕著に残り、それと併行して掘立柱列があり、南西隅に井戸が認められた。

第4遺構面C 中央やや南側でL字形の東西溝があり、北側整地層の範囲はその溝まで及ぶ。東西溝の北側には併行して小溝があるとともに、土坑、掘立柱、落込みを検出した。

第4遺構面D 溝と土坑が連なり、L字形の区画が明瞭に確認でき、その区画の南西隅には掘立柱建物が復元できる。

第4遺構面E 南半に東西方向の落込み、北西部にも東西方向の小溝があり、その北側に南北方向の小溝が併行して存在した。

第5遺構面B 西半と西側で北北西-南南東、東側で北北東-南南西方向の流路が見られ、主に北北西-南南東方向のものに足跡、鋤跡が良好に認められた。

第5遺構面C 全面に流路であるが、中央に北北西-南南東方向の高まりがあり、ビットと小溝が残っていた。

第5遺構面D 中央が北北西-南南東方向の流路の中心となり、調査区全体にくぼむ。

2.2区

この調査区は、第1遺構面の構造物がちょうど調査掘削深度まで及んでいた。

第1遺構面 中央北側、東西方向に水路があり、その南側に構造物が集中する。西側にも南北方向の水路がある。

第2遺構面A 中央東側の畔から西半がやや高くなり、北側で東西方向の畔が取り付く。その西側北端でこの畦畔を切って木樋暗渠が南北方向にあり、南に接してある木組みの柵とセットになると考えられる。

第3遺構面A 西半が高くなり、北側で落ち、方形の島島となっている。その北東隅に桶を利用した井戸があった。

第3遺構面B 西半の島島下部の北東に東西方向の小溝がある。

第3遺構面C 幅0.8mほどの東西溝を中心として、南北に東西溝が併行していた。中央から南側

は西が高く、間隔をおいて3条ある南北溝を会して東へわずかつ降る難壇を呈する。

第3遺構面D 全体に水平面をなし、東西溝が併行するが、南東部は耕作区画が変わり、土坑を伴う。

第3遺構面E 全体に幅1.5mほどの東西溝が中央と南側にある。

第3遺構面F 南東側に南北から東北東へ向かう谷状の落込みがあり、その中央に径6.0mの円形の井戸が存在した。

第4遺構面A 中央南側東よりのところで南北方向に、東側中央で東西方向に多量の土器、瓦類を混ぜた整地層が認められ、特に、前者には掘立柱建物がのる。それに伴って、方形の土坑も存在する。

第4遺構面B 東側中央では幅3.5mの東西溝が存在し、南側の建物群を明瞭に区画する。南東側にある東西南北の小溝の分布は範囲が狭まり、高いところのみ残る。土坑、掘立柱、落込みが密集していた。

第4遺構面C 東側中央に長方形土坑、それに沿って掘立柱列が南側にある。それより、南側の未調査地側は掘立柱建物が集中するようである。

第5遺構面 調査区中央で、流路堆積下に南西-北東、南東-北西方向に畔があり、十字に交差する。

(一瀬)

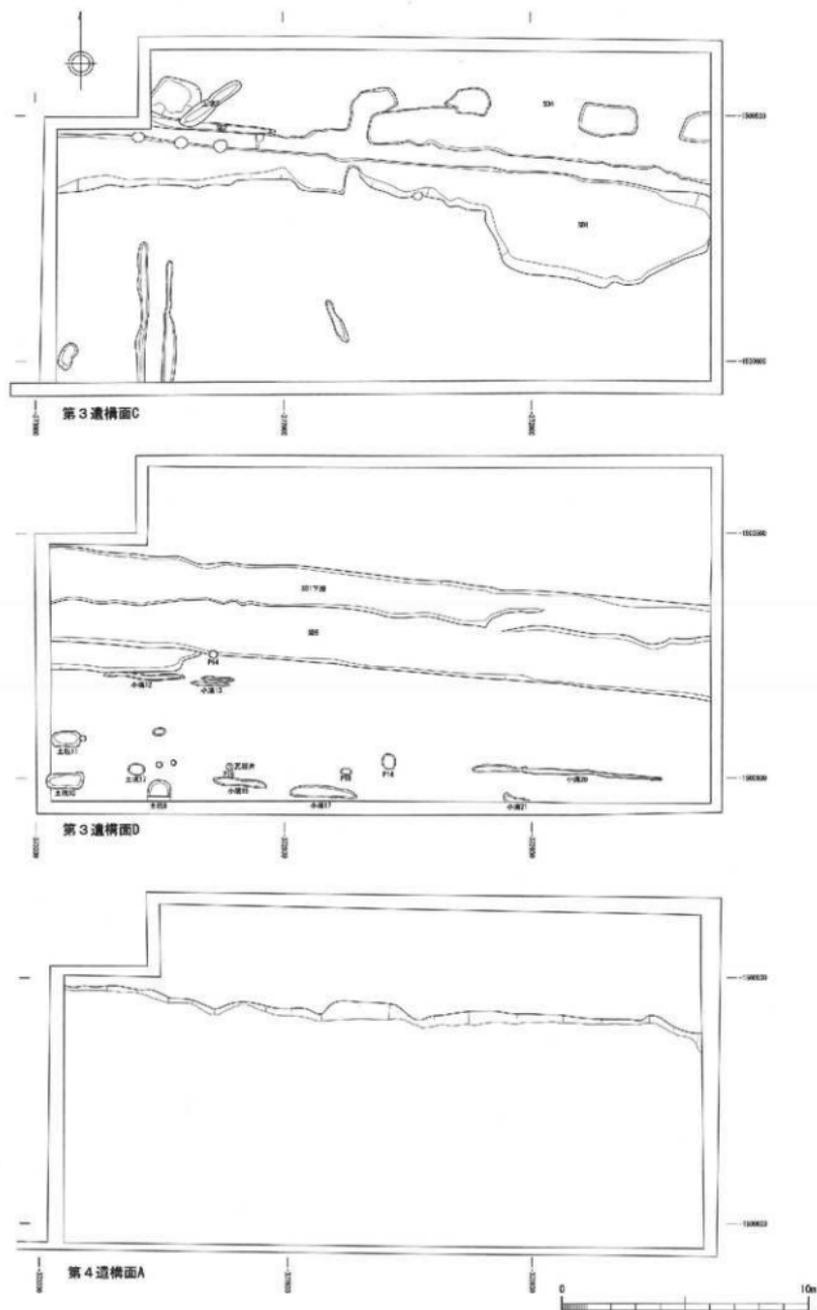


图4 1区 第3遺構面C·D、第4遺構面A平面

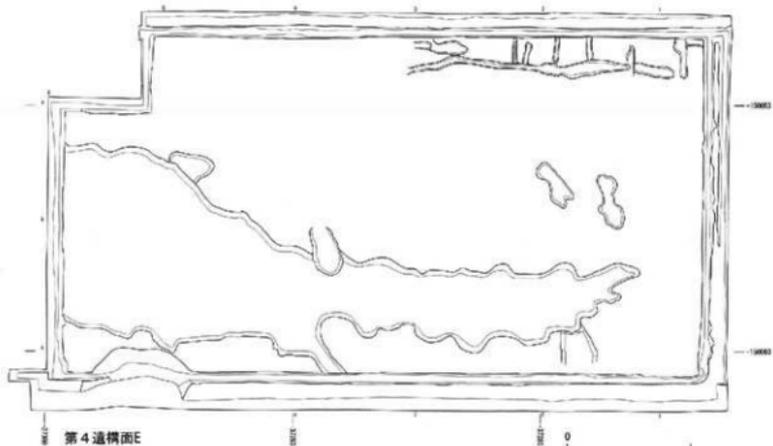
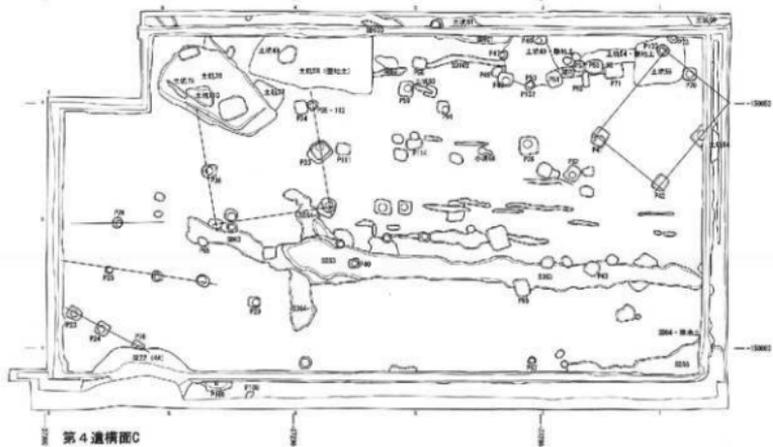
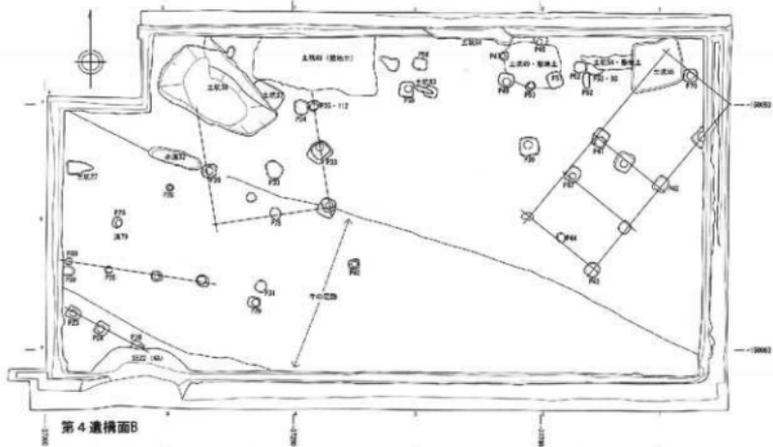


图5 1区 第4遺構面B·C·E平面

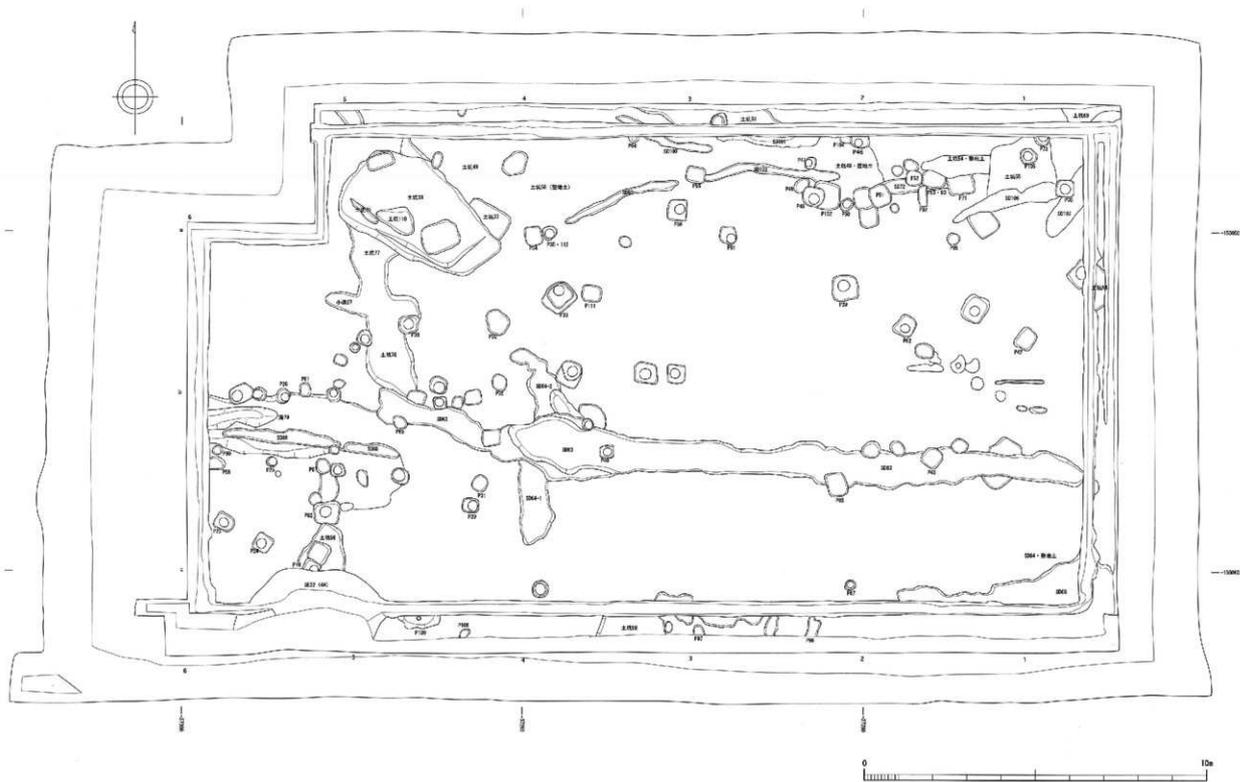
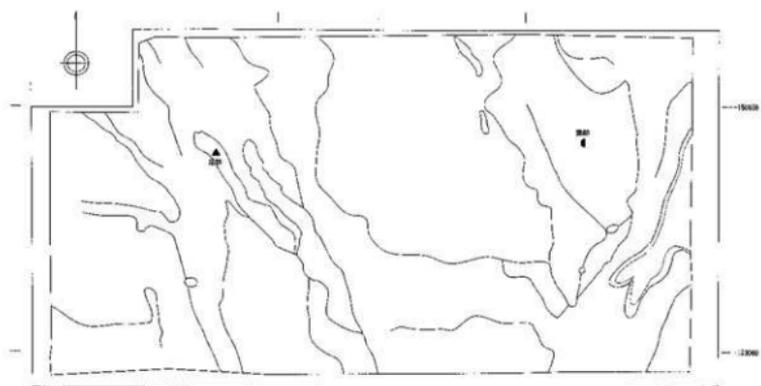
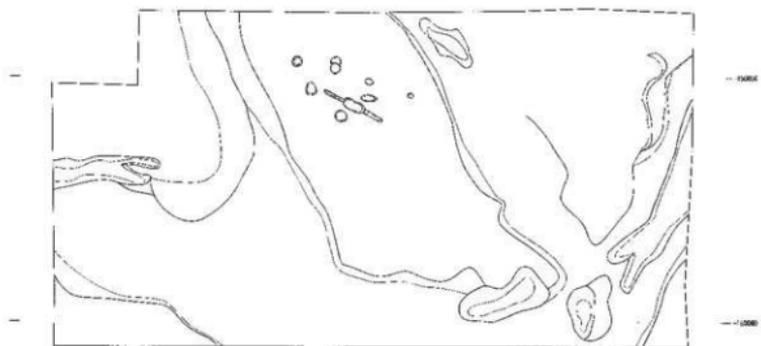


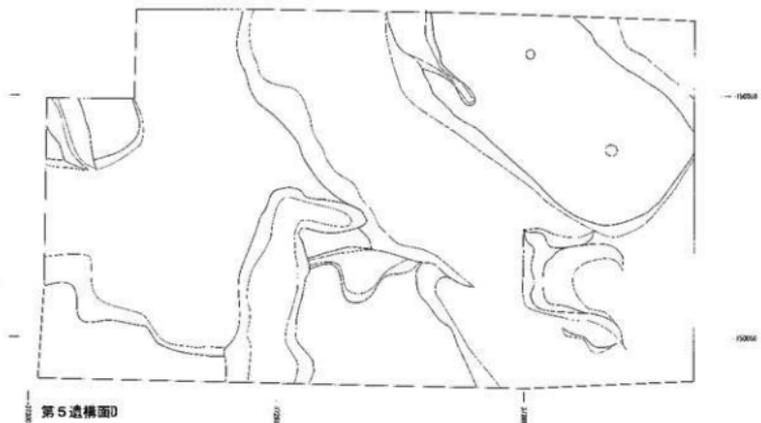
图6 1区 第4遺構面D平面



第5遺構面B



第5遺構面C



第5遺構面D

图7 1区 第5遺構面B·C·D平面



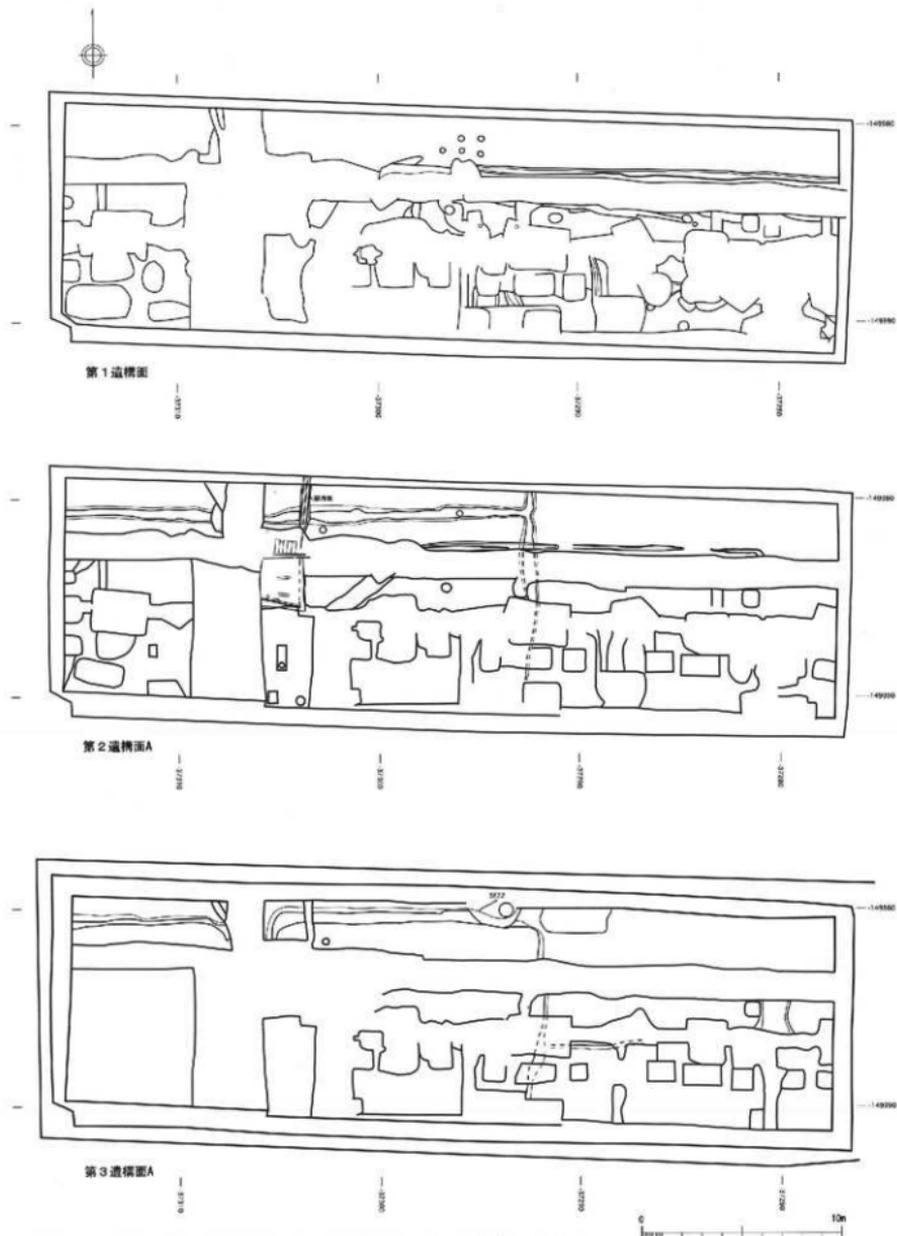


图8 2区 第1遺構面、第2遺構面A、第3遺構面A平面

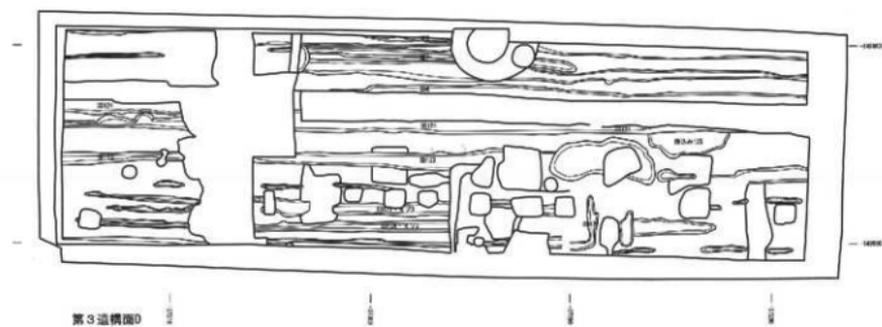
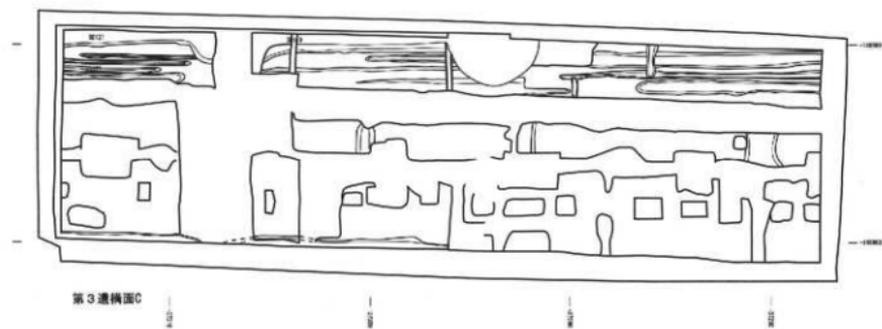
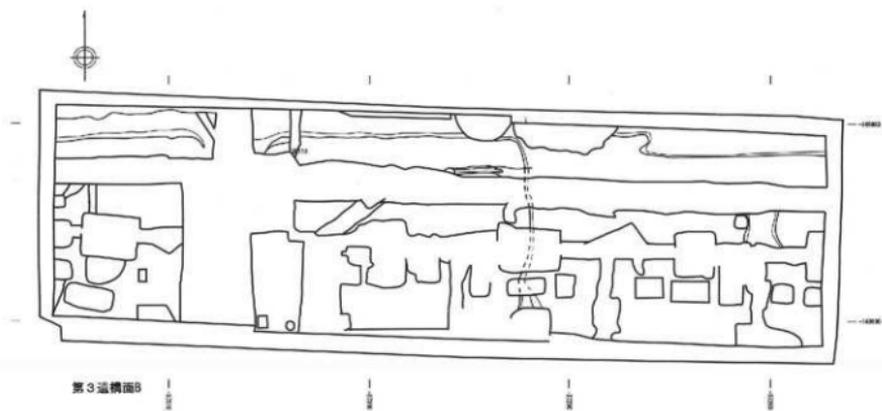


图9 2区 第3遺構面B·C·D平面



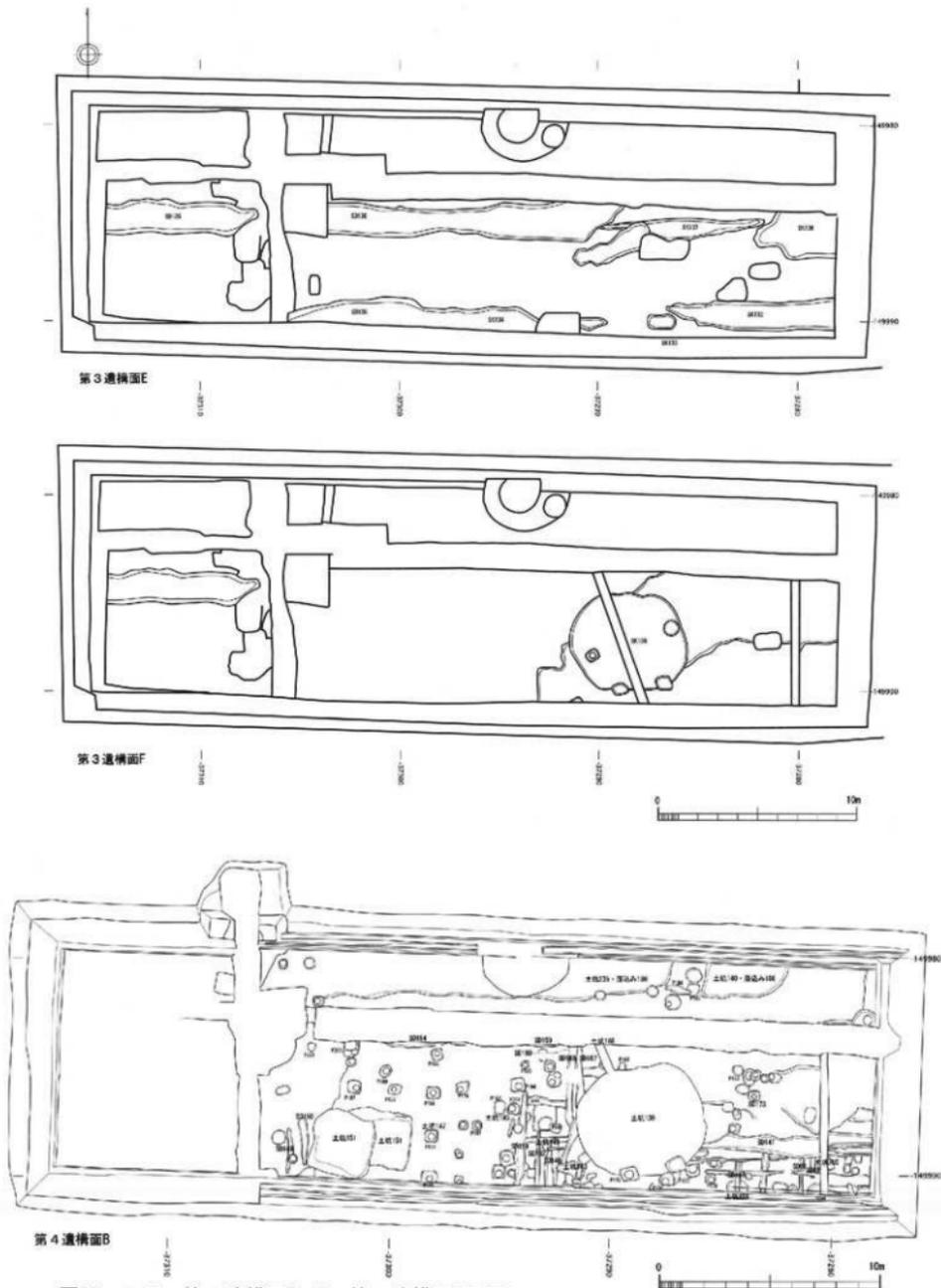


图10 2区 第3遺構面E・F、第4遺構面B平面

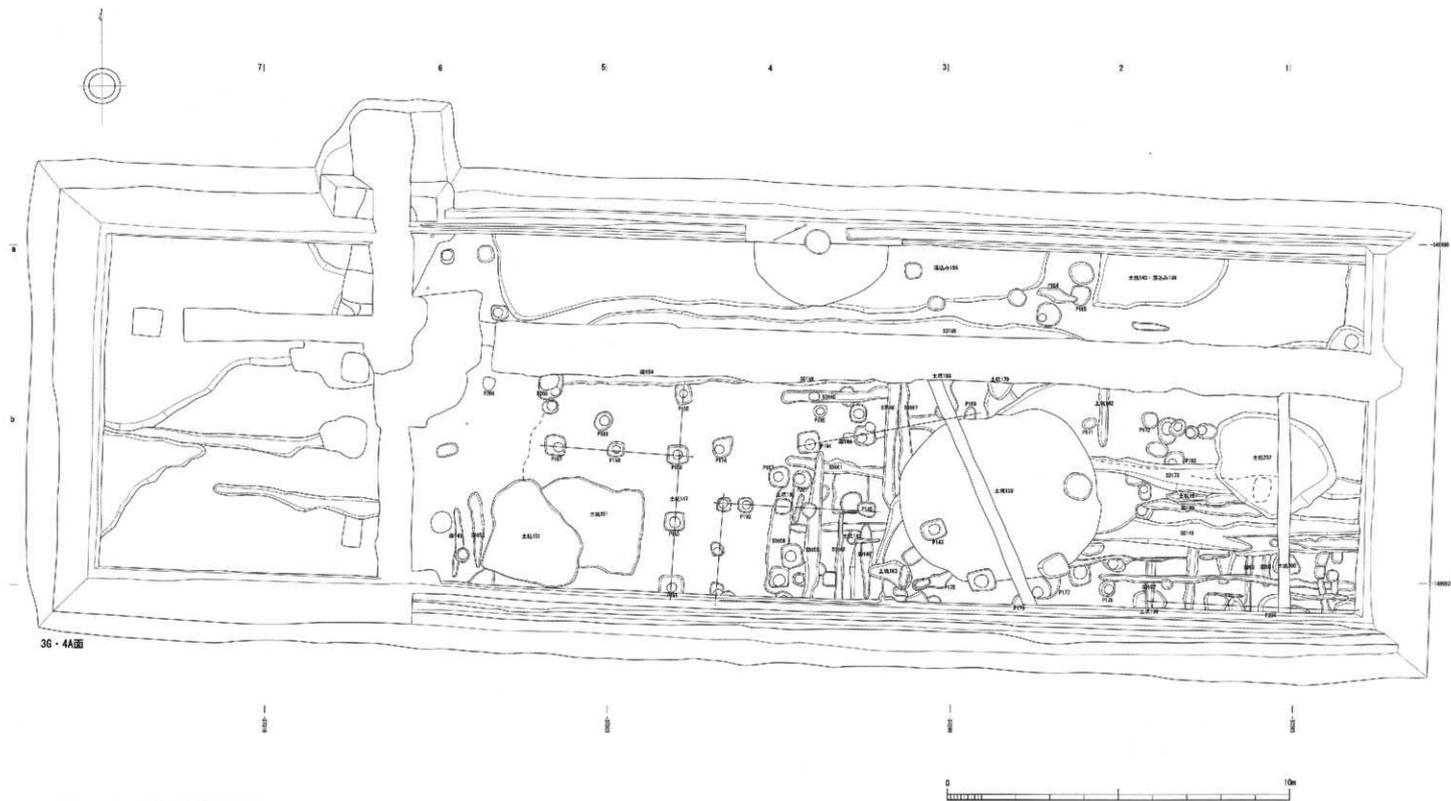


图11 2区 第4遺構面A平面

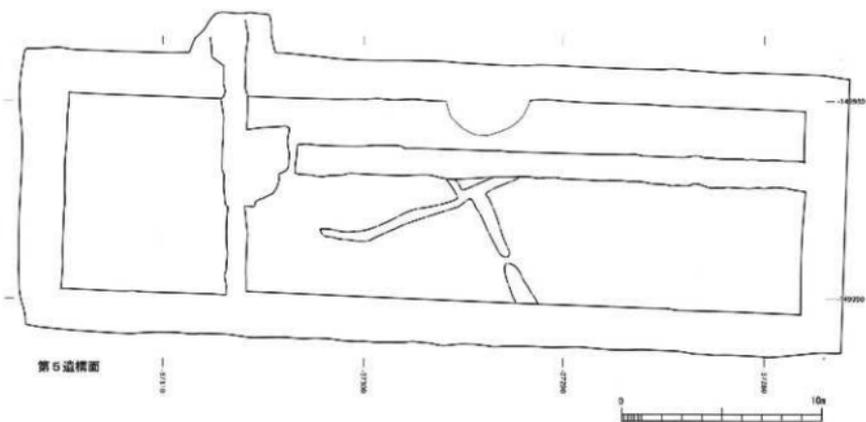
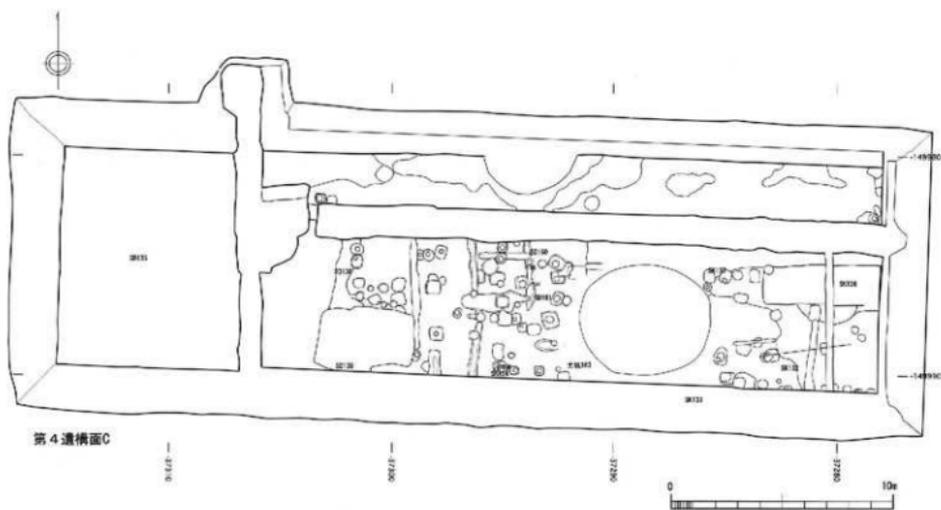


图12 2区 第4遺構面C、第5遺構面平面

第3章 出土遺物

第1節 1区出土遺物

本調査で出土した遺物には、陶磁器、瓦器、土師器、須恵器といった土器類の他、瓦、木製品、石製品があった。図13では、2区柱列から出土する磚1や、1区の布目丸瓦2、縄目・布目が残る平瓦3・4といったものもあるが、ここでは奈良・平安時代の出土遺物の中でも土器を中心に報告することにする。

1. 須恵器 杯蓋・杯・高杯・平瓶・甕 (図14)

1~11は杯蓋、12~23は杯、24は高杯の脚柱部、25は平瓶、26~29は甕である。

1・3~5・7~9は天井部と口縁部の間に段を有し、天井部は平坦である。10・11は口縁部内面にかえりを有する。かえりは短く地面に接地しない。

12は内面にやや内傾した短いちあがり有する。受部は体部より水平にのびる。13はほぼ直線的に外傾する体部を有、口縁端部は丸くおさめている。15・16・21は底面両端に高台が取り付けられている。19・22は直立した高台が取り付けられており、それ以外は「ハ」の字状に取り付けられている。

26・27は外方に肥厚する口縁部を有する。27は口縁部内面に当て具痕が見られる。28の口縁部は外方に水平にのび断面三角形を呈する。29は口縁部が外方に肥厚しており、断面長方形を呈する。

時期は1~9が8世紀、10~11が7世紀、12が6~7世紀、13が8世紀、14が9世紀、15~29が古代である。

2. 須恵器 壺 (図15)

1~14は壺である。1は直線的に外傾しながらのびる頸部にわずかに外方に屈曲する口縁部を有する。7は底面両端に断面三角形の高台を有する。8は底面両端に断面逆台形の短い高台を有

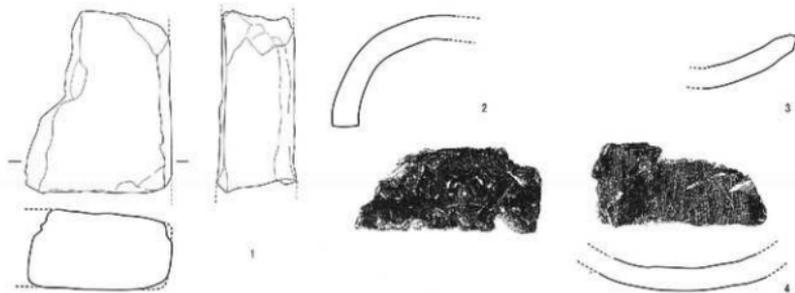


図13 出土瓦他

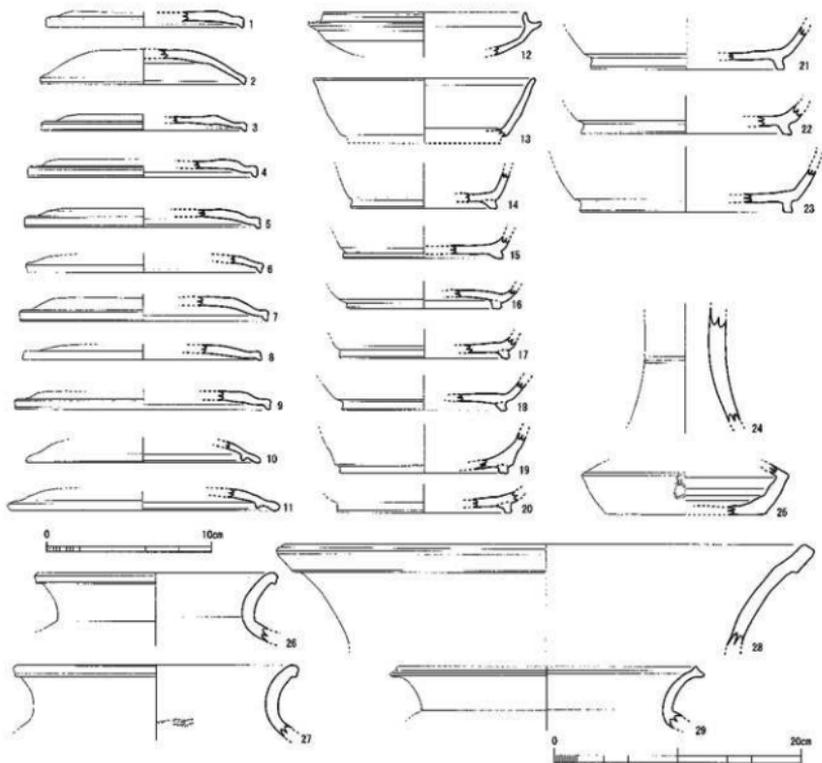


図14 1区 出土須恵器 杯・高杯・平瓶・甕 (表1)

する。13は「ハ」の字状の高台を有する。14・16は直立する高台を有する。15～23は底面両端に高台が貼り付けられている。

時期は13・14が8世紀、それ以外が9世紀である。

3. 土師器 杯・皿 (図16)

1～24が杯、25～38が皿である。外面に指頭圧痕の見られるものが多い。1・3・5・9・11～15・21・32～34・37の体部は口縁部付近で外反している。17・30は体部外面口縁部付近に段を有する。38は「て」の字状口縁を有し、内外面に緑白灰色の釉が施釉されている。

時期は1～37が9世紀、38が中世である。

4. 土師器 甕・鉢 (図17)

1～28が甕、29～30が鉢である。3・7・20・21・23・25は口径が胴部最大径よりも小さい。甕は頸部付近に指頭圧痕の見られるものが多い。7は体部内面に、18は口縁部内面に横方向のハ

表1 1区 出土須恵器 杯・高杯・平瓶・甕

発掘番号	遺跡番号	出土地点	器種	種類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	口縁			色 調			出土状況
									外周	内面	底面	外面	内面	底面	
1	699	1区 a4 4C 山形塚	杯	須恵器	AC	(12.0)	不明	残存高 (0.9)	ナデ	ナデ	不明	灰色	灰色	灰色	普通
2	461	1区 a4 4C 山形塚	杯	須恵器	AC	(12.4)	不明	残存高 (2.0)	ナデ	ナデ	不明	灰色	灰色 (やや暗)	灰色	普通
3	516	1区 b2 4C 山形塚	杯	須恵器	AC	(12.4)	不明	不明	ナデ	ナデ	不明	灰色	灰色	灰色	普通
4	397	1区 a4 4C 山形塚	杯	須恵器	AC	(13.8)	不明	残存高 (0.9)	ナデ	ナデ	不明	白灰色	白灰色	白灰色	普通
5	1004	1区 a3 3C 下野	杯	須恵器	AC	(14.2)	不明	残存高 (1.1)	ナデ	ナデ	不明	灰白色	灰白色	灰白色	普通
6	373	1区 a3 4C 山形塚	杯	須恵器	AC	(14.6)	不明	残存高 (4.0)	ナデ	ナデ	不明	灰色	灰色	灰色	普通
7	382	1区 a3 4C 山形塚	杯	須恵器	AC	(16.0)	不明	不明	ナデ	ナデ	不明	灰色	灰色	灰色	普通
8	460	1区 a4 4C 山形塚	杯	須恵器	AC	(14.5)	不明	残存高 (0.9)	ナデ	ナデ	不明	灰色	灰色	灰色	普通
9	412	1区 c2 4C 山形塚	杯	須恵器	AC	(13.4)	(1.1)	不明	ナデ	ナデ	不明	明灰色	明灰色	明灰色	普通
10	467	1区 a4 4C 山形塚	杯	須恵器	7C	(14.2)	不明	残存高 (1.3)	ナデ	ナデ	不明	明灰色	明灰色	明灰色	普通
11	361	1区 a3 4C 山形塚	杯	須恵器	AC	(16.5)	不明	残存高 (1.3)	ナデ	ナデ	不明	灰色	灰色	灰色	普通
12	521	1区 c4 4C 山形塚	杯	須恵器	8/7C	(12.3)	不明	2.6	ナデ	ナデ	不明	灰白色	灰白色	灰白色	普通
13	593	1区 b3 4A 下野	杯	須恵器	AC	(13.4)	不明	残存高 (3.6)	ナデ	ナデ	不明	灰色	灰色	灰色	普通
14	431	1区 a4 4C 山形塚	杯	須恵器	9C	不明	(8.4)	不明	ナデ	ナデ	不明	灰色	灰色	灰色	普通
15	489	1区 a4 4C 山形塚	杯	須恵器	古代	不明	(9.6)	残存高 (1.3)	ナデ	ナデ	不明	白灰色	淡青色	白灰色	普通
16	487	1区 a4 4C 山形塚	杯	須恵器	AC	不明	(9.4)	残存高 (1.2)	ナデ	ナデ	不明	明灰色	明灰色	明灰色	普通
17	419	1区 c2 4C 山形塚	杯	須恵器	AC	不明	10.2	残存高 (1.1)	ナデ	ナデ	不明	明灰色	明灰色	明灰色	普通
18	673	1区 a4 3D 山形塚	杯	須恵器	AC	不明	(9.4)	残存高 (1.8)	ナデ	ナデ	不明	薄灰色	薄灰色	薄灰色	普通
19	258	1区 a3 4C 山形塚	杯	須恵器	AC	不明	(10.0)	残存高 (2.0)	ナデ	ナデ	不明	灰色	灰色	灰色	普通
20	410	1区 c2 4C 山形塚	杯	須恵器	AC	不明	(10.4)	残存高 (1.3)	ナデ	ナデ	不明	灰色	灰色	灰色	普通
21	377	1区 a3 4C 山形塚	杯	須恵器	AC	不明	(11.8)	残存高 (2.0)	ナデ	ナデ	不明	灰色	灰色	灰色	普通
22	575	1区 a2 4C 山形塚	杯	須恵器	AC	不明	(13.1)	残存高 (2.6)	ナデ	ナデ	不明	灰色	灰色	薄灰色	普通
23	525	1区 b3 4C 山形塚	杯	須恵器	AC	不明	(13.0)	不明	ナデ	ナデ	不明	薄灰色	薄灰色	薄灰色	普通
24	1005	1区 c3 (山形塚) 3D 下野	杯	須恵器	AC	不明	(5.0)	不明	ナデ	ナデ	不明	灰色	灰色	灰白色	普通
25	599	1区 a3 4A 山形塚	杯	須恵器	AC	不明	(12.6)	残存高 (3.0)	ナデ	ナデ	不明	灰色	灰色	薄灰色	普通
26	495	1区 c6 4C 山形塚	杯	須恵器	AC	不明	(19.6)	残存高 (5.6)	ナデ	ナデ	不明	灰色	灰色	灰色	普通
27	501	1区 a4 4C 山形塚	杯	須恵器	AC	不明	(23.5)	残存高 (5.8)	ナデ	ナデ	不明	灰色	灰色	灰色	普通
28	537	1区 b4 4D 下野	杯	須恵器	AC	不明	(24.2)	残存高 (3.9)	ナデ	ナデ	不明	明灰色	明灰色	明灰色	普通
29	498	1区 a3 4C 山形塚	杯	須恵器	AC	不明	42.2	残存高 (3.0)	ナデ	ナデ	不明	灰色	灰色	灰色	普通

注() 内縁は反転後元の位置

ケメが施されている。14・24・25は口縁端部内面が肥厚している。

5. 土師器 鈿甕・土釜・杯、黒色土器 (図18)

1～3が鈿甕、4が土釜、7・8・10～13が杯、6・9・14・15が黒色土器杯である。1は外反する口縁を有する。鈿は体部より水平にのびる。口縁内部に指頭圧痕が見られる。4は口縁部・鈿部ともに短く、口縁端部内面に段を有する。体部内外面に縦方向のハケメが施されている。

6は両黒焼成で、外湾する体部に緩やかに外反する口縁部をもつ。口縁部内端の角に段を付けるように沈線が施されている。体部内面に横方向の緻密なミガキが施されている。8は外湾する体部にやや外反する口縁部をもち、口縁端部は肥厚し丸くおさまられている。体部内面に横方向のミガキが施されている。9は両黒焼成で、口縁部付近は強いナデによりが一段低くなっている。

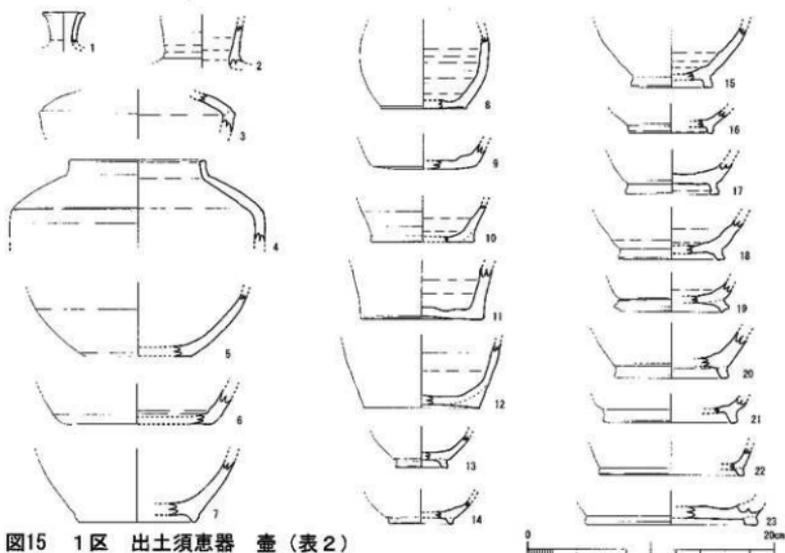


図15 1区 出土須恵器 壺(表2)

表2 1区 出土須恵器 壺

発掘 番号	出土地点	器種	種類	時代	口径 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	底 部			色 澤			胎土	備 考		
								外底	底 部	底 部	外底	内底	断面				
1	1区 a2 40区 SK49	壺	須恵器	9C	(3.2)	不明	残存高 (2.45)	ロクロナデ	ロクロナデ 具熱粘り層	不明	灰色	内底	灰色	良			
2	378 1区 c5 40区	壺	須恵器			不明	残存高 (5.3)	ロクロナデ	ロクロナデ 自然粘り層	不明	灰色	灰色	灰色	良			
3	454 1区 a4 40区 御前	壺	須恵器			不明	残存高 (15.5)	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	灰色内~灰色	赤灰色	赤灰色	良			
5	311 1区 a2 40区 下層	壺	須恵器			不明	残存高 (11.0)	不明	不明	不明	白灰色 段灰色(粘)	白灰色	段灰色	良			
5	411 1区 a2 40区	壺	須恵器			不明	残存高 (5.15)	ロクロ へつ削り	ロクロナデ 羅ナデ	ロクロ へつ削り	灰色	灰色	段灰色	良			
6	302 1区 a2 40区	壺	須恵器			不明	残存高 (2.1)	削り	ロクロナデ	削り	赤灰色	赤灰色	赤灰色	良			
7	576 1区 a2 40区	壺	須恵器			不明	(9.5)	へつ削り羅ナデ	ナデ	ナデ	濃灰色	濃灰色	濃灰色	良			
8	533 1区 b6 30区	壺	須恵器			不明	(6.8)	ナデ 段削り	工具で羅ナデ	へつ削り羅ナデ	暗赤褐色	明赤褐色	赤赤褐色	良			
9	507 1区 a3 40区 SK92	壺	須恵器			不明	8.6	残存高	ロクロナデ	ロクロナデ	赤灰色	暗灰色	赤灰色	良			
10	427 1区 a2 40区 SK49	壺	須恵器			不明	(8.1)	残存高	ロクロナデ	ナデ	ナデ、ロクロナデ 粘り層	白~灰色	白~灰色	白~灰色	良		
11	1000 1区 a1 4A下層	壺	須恵器			不明	(10.0)	(4.1)	へつ削り	ロクロナデ	ナデ	赤褐色	灰色	灰色	良		
12	697 1区 b2 30区 下層	壺	須恵器			不明	(9.4)	不明	ロクロナデ ナデ	ナデ、ロクロナデ 粘り層	白灰色	赤灰色	白灰色	良			
13	400 1区 a1 40区 SK49	壺	須恵器	9C		不明	(4.2)	(2.5)	ロクロナデ へつ削り	ロクロナデ	ナデ	赤灰色	明灰色	明灰色	良		
14	257 1区 a3 40区	壺	須恵器			不明	(5.2)	残存高 (1.9)	ロクロナデ	ロクロナデ	赤内	紫色	赤灰色	良			
15	616 1区 b6~6 30区 SK02	壺	須恵器	9C		不明	(6.4)	残存高 (6.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	紅灰色	灰色 (赤~青み)	緑灰色	良		
16	580 1区 a2 40区 SK49	壺	須恵器			不明	(6.9)	残存高 (1.9)	ロクロナデ ナデ	ロクロナデ	不明	白灰色	白灰色	白灰色	良		
17	370 1区 a2 40区 下層	壺	須恵器			不明	(7.4)	不明	不明	不明	不明	不明	不明	良			
18	582 1区 a2 40区 SK49	壺	須恵器			不明	(8.6)	残存高 (3.2)	ナデ 削り羅ナデ	ナデ ロクロナデ	ナデ	灰色	白色	白灰色	良		
19	416 1区 c2 40区	壺	須恵器			不明	(9.4)	残存高 (1.8)	ロクロナデ ナデ	ロクロナデ ナデ	不明	明灰色	明灰色	明灰色	良		
20	512 1区 a4 40区 SK54-2	壺	須恵器	9C		不明	(9.3)	(3.0)	不明	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	灰色	灰色	灰色	良	
21	185 1区 b6 4A下層	壺	須恵器			不明	(11.0)	残存高 (2.0)	不明	不明	不明	不明	不明	良			
22	468 1区 a4 40区 SK49	壺	須恵器			不明	(11.6)	残存高 (2.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	白~灰色	白~灰色	白~灰色	良		
23	469 1区 a4 40区 SK49	壺	須恵器			不明	(14.0)	残存高 (2.0)	不明	不明	不明	不明	不明	良			

※()内数値は反転産元後の数値

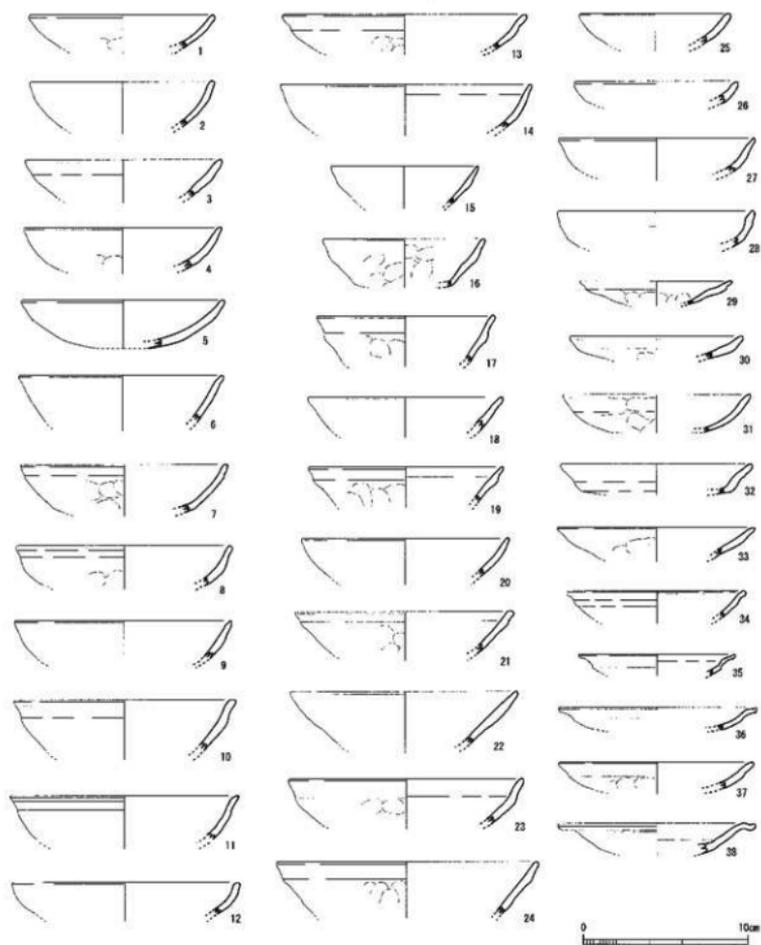


图16 1区 出土土師器 杯·皿(表3)

表3 1区 出土土器器 杯・皿

発掘 番号	発掘 地点	器種	種類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	器 身		色 調		出土 状況		
								外周	内周	外周	内周			
1	1016	1K 12 4A 直取上	杯	土師器	9C (11.1)	不明	残存高 (1.96)	ナゲ	ナゲ	淡黒灰色	淡黒灰色	淡黒灰色	並 良	
3	1017	1K 12 4A 直取上	杯	土師器	(11.2)	不明	残存高 (3.0)	ナゲ	ナゲ	淡褐色	淡褐色	淡褐色	中 心 上	
3	883	1K 16 (北) 4B 直取上	杯	土師器	(12.0)	不明	残存高 (2.2)	ナゲ	ナゲ (ミガキ?)	黄灰色	黄灰色	黄灰色	並 良	
4	191	1K 14 4C 直取上	杯	土師器	(12.2)	不明	残存高 (2.9)	ナゲ	ナゲ	淡茶褐色	淡茶褐色	淡白色	前 良	
3	503	1K 16 4C 直取上	杯	土師器	(12.4)	不明	残存高 (2.9)	ナゲ	ナゲ	赤褐色	黄灰色	黄褐色	並 良	
6	504	1K 16 4A直 4A下層	杯	土師器	(12.4)	不明	残存高 (2.9)	ナゲ	ナゲ	赤褐色	赤褐色	赤褐色	中 心 上	
7	1002	1K 16 4A直 下層	杯	土師器	(12.6)	不明	残存高 (2.9)	ナゲ、指圧痕 感ハナク?	ミガキ 感ハナク?	赤褐色	赤褐色	赤褐色	並 良	
8	492	1K 16 4C 直取上	杯	土師器	(13.2)	不明	残存高 (2.4)	ナゲ	ナゲ	暗褐色	暗褐色	暗褐色	並 良	
9	388	1K 16 4B直 4B下層	杯	土師器	(13.0)	不明	残存高 (2.3)	ナゲ	ナゲ	淡茶褐色	淡茶褐色	淡茶褐色	並 良	
10	505	1K 16 4A直 4A下層	杯	土師器	(13.4)	不明	残存高 (2.5)	ナゲ	ナゲ? ミガキ?	黄褐色	茶色	黄褐色	前 良	
11	1003	1K 16 4A直 4A下層	杯	土師器	(13.8)	不明	残存高 (2.7)	横ナゲ	横ナゲ	白灰色	淡茶褐色	褐色	前 良	
12	1006	1K 16 (南) 30下層	杯	土師器	(14.0)	不明	残存高 (2.0)	ナゲ	ミガキ?	褐色～赤褐色	赤褐色	褐色～赤褐色	並 良	
13	676	1K 14 30下層	杯	土師器	(14.8)	不明	不明	ナゲ ミガキ?	不明	淡茶褐色 (灰色)	淡茶褐色 (灰色)	淡茶褐色 (灰色)	並 良	
14	1027	1K 16 30下層	杯	土師器	(15.1)	不明	不明	ナゲ	ナゲ	不明	明赤褐色	明赤褐色	前 良	
15	573	1K 16 43直	杯	土師器	(9.0)	不明	残存高 (2.2)	ナゲ	ナゲ	不明	明赤褐色	明褐色	並 良	
16	426	1K 16 4C直 5K49	杯	土師器	(9.8)	不明	不明	ナゲ 新江流	ナゲ 新江流	不明	黄褐色	淡茶褐色	黄褐色	前 良
17	619	1K 16 4C直 5K49	杯	土師器	(10.7)	不明	残存高 (2.0)	ナゲ	ナゲ	不明	黄褐色	淡茶褐色	黄褐色	前 良
18	621	1K 16 4C直 5K49	杯	土師器	(11.8)	不明	残存高 (2.0)	ナゲ 新江流	ナゲ 新江流	不明	黄褐色	淡茶褐色	黄褐色	前 良
19	1010	1K 16 4A下層	杯	土師器	(12.0)	不明	不明	横ナゲ 新江流	ナゲ	不明	淡茶褐色 (赤褐色)	淡茶褐色 (赤褐色)	淡褐色	並 良
20	599	1K 16 4A直 4A下層	杯	土師器	(12.0)	不明	不明	ナゲ? ミガキ?	ナゲ? ミガキ?	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	前 良
21	675	1K 16 4A直 4A下層	杯	土師器	(13.2)	不明	残存高 (2.9)	ナゲ	ナゲ	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	中 心 上
22	458	1K 16 4C直	杯	土師器	(13.8)	不明	残存高 (3.2)	ナゲ	ナゲ	不明	黄褐色 赤褐色	黄褐色 赤褐色	灰色	前 良
23	566	1K 16 4C直 5K55	杯	土師器	(14.4)	不明	残存高 (2.8)	ナゲ	ナゲ	不明	淡茶褐色	淡茶褐色	淡茶褐色	前 良
24	474	1K 16 4C直 5K55	杯	土師器	(15.9)	不明	不明	横ナゲ 新江流	ナゲ	不明	茶色っぽい 赤褐色	白っぽい 赤褐色	茶色っぽい 赤褐色	前 良
25	571	1K 16 4C直	皿	土師器	(9.0)	不明	残存高 (1.9)	ナゲ	ナゲ	不明	灰色	黄褐色	淡茶褐色	前 良
26	576	1K 16 4C直	皿	土師器	(9.8)	不明	残存高 (1.4)	ナゲ?	ナゲ?	不明	黄褐色	淡茶褐色	淡茶褐色	前 良
27	656	1K 16 (南) 4C直 4A下層	皿	土師器	(12.0)	不明	残存高 (2.65)	ナゲ	ミガキ?	不明	白っぽい 赤褐色	白っぽい 赤褐色	赤褐色	前 良
28	571	1K 16 3直	皿	土師器	(12.0)	不明	残存高 (2.2)	ナゲ	ナゲ	不明	黄褐色	淡茶褐色	淡茶褐色	並 良
29	612	1K 16 3直	皿	土師器	9/10C (9.1)	不明	残存高 (1.6)	ナゲ	ナゲ	不明	淡茶褐色	淡茶褐色	淡茶褐色	並 良
30	1034	1K 16 4A直 5K	皿	土師器	9C (10.4)	不明	残存高 (1.46)	ナゲ、横ナゲ 新江流	ナゲ 横ナゲ	不明	淡茶褐色	淡茶褐色	淡茶褐色	並 良
31	535	1K 16 4C直 5K55	皿	土師器	(11.4)	不明	残存高 (2.3)	ナゲ 新江流	ナゲ	不明	黄褐色	白っぽい 赤褐色	淡茶褐色	前 良
32	448	1K 16 4C直 5K55	皿	土師器	(11.7)	不明	残存高 (1.8)	ミガキ	ナゲ、ミガキ?	ナゲ	赤褐色	赤褐色	赤褐色	並 良
33	381	1K 16 4C直	皿	土師器	(11.8)	不明	残存高 (1.9)	ナゲ	ナゲ スズ付金	不明	黄褐色	褐色	褐色	前 良
34	592	1K 16 4A直 4A下層	皿	土師器	9/10C (10.7)	不明	残存高 (1.65)	ナゲ	ナゲ、ミガキ? 新江流	不明	黄褐色	淡茶褐色	淡茶褐色	前 良
35	658	1K 16 3直 5K55	皿	土師器	(9.6)	不明	不明	ナゲ	ナゲ	不明	白赤褐色	茶色	白赤褐色	前 良
36	452	1K 16 4C直 5K55	皿	土師器	(12.0)	不明	残存高 (1.4)	ナゲ? 新江流	ナゲ? 新江流	不明	白っぽい 赤褐色	白っぽい 赤褐色	白っぽい 赤褐色	並 良
37	367	1K 16 4C直	皿	土師器	(11.8)	不明	不明	ナゲ	ナゲ	不明	黄褐色	黄褐色	黄褐色	中 心 上
38	642	1K 16 4C直 3C下層	皿	土師器	9/10C (12.3)	不明	不明	ミガキ 新江流	ミガキ 新江流	不明	白灰色	淡茶褐色	白灰色	前 良

※() 内数字は発掘直後の数値

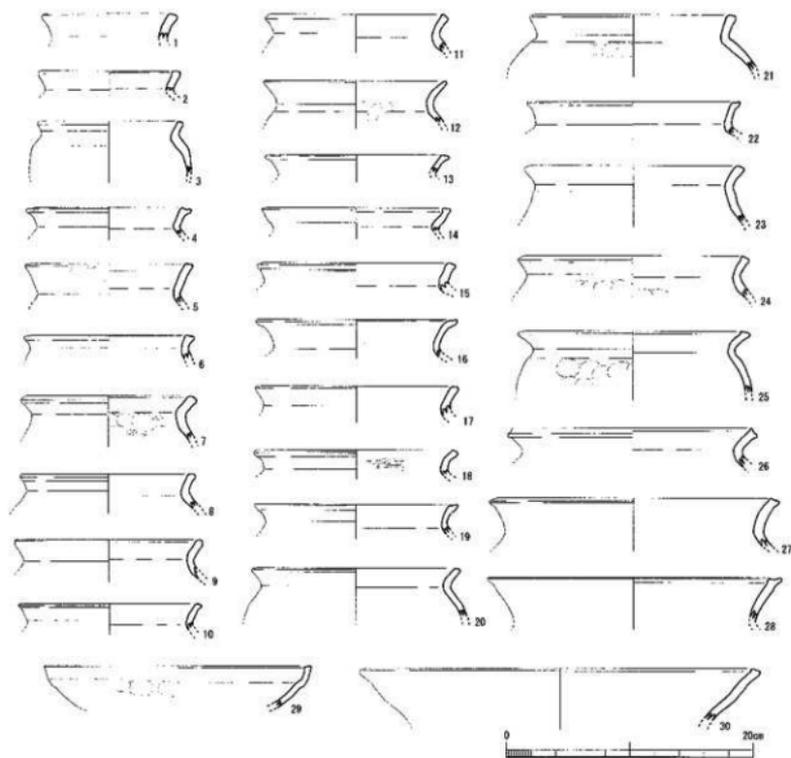


図17 1区 出土土師器 壺・鉢 (表4)

体部外面には指頭圧痕が見られ、体部内面には横方向の緻密なミガキが施されている。10・13は断面三角形の高台を底面両端に貼り付けている。

時期は1～3が8～9世紀、4が中世、5～15が9世紀である。

6. 土師器 高杯、陶器碗 (図19)

1は土師器高杯、2～14は陶器碗である。3は体部が内湾し、口縁端部が外反している。高台は貼り付けの輪高台である。内外面に緑色の釉が施軸されている。4・5・7は口縁端部が外反し、内外面に緑色の釉が施軸されている。8は幅広い器高の低い高台を有する。緑がかった白色の釉が施軸されている。9は器高の高い輪高台を有する。内外面に緑色の釉が施軸されている。10は高台底部に糸切り痕が見られる。

時期は1が8～9世紀、2・3が9・10世紀、4～10が中世である。

(大欠)

表4 1区 出土土器 甕・鉢

発掘 番号	発掘 層	出土地点	器種	種類・時代	口径 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	器 型			色 装			胎土 構成
								外蓋	内蓋	底蓋	外蓋	内蓋	底蓋	
1 389	1区 下層 73 4C 甕	美	土師器	9C	(11.8)	不明	残存高 (1.5)	ナブ	ナブ		藍色	藍色	白色	灰 土
2 425	1区 下層 5849	美	土師器		(11.4)	不明	残存高 (1.55)	ナブ	ナブ	不明	褐色褐色	褐色褐色	褐色褐色	灰 土
3 413	1区 下層 1171	美	土師器		(11.45)	不明	不明	ナブ	ナブ		黒い茶色	赤茶色	黒茶色	灰 土
4 1029	1区 下層 40	美	土師器		(13.0)	不明	残存高 (2.1)	横ナブ	横ナブ		赤褐色	灰褐色	赤褐色	灰 土
3 594	1区 下層 41	美	土師器		(13.6)	不明	残存高 (3.2)	ナブ	ナブ		黒い茶色	赤い茶色	赤色	灰 土
6 300	1区 下層 42	美	土師器		(12.8)	不明	残存高 (1.7)	ナブ	不明		黒褐色	褐色	褐色	灰 土
7 426	1区 下層 43	美	土師器		(14.2)	不明	残存高 (3.6)	ナブ	ナブ	不明	白っぽい 赤褐色	白っぽい 赤褐色	赤褐色	灰 土
3 534	1区 下層 44	美	土師器		(14.2)	不明	残存高 (4.5)	ナブ	ナブ	不明	褐色褐色	白っぽい 赤褐色	赤褐色	灰 土
9 1014	1区 下層 45	美	土師器		(14.3)	不明	残存高 (2.1)	横ナブ			褐色褐色	赤褐色	赤褐色	灰 土
10 1032	1区 下層 46	美	土師器		(15.1)	不明	不明	ナブ	ナブ		褐色	赤褐色	赤褐色	灰 土
11 522	1区 下層 47	美	土師器		(14.8)	不明	残存高 (2.9)	ナブ	ナブ	不明	褐色褐色	赤褐色	赤褐色	灰 土
12 397	1区 下層 48	美	土師器		(14.7)	不明	残存高 (3.25)	ナブ	ナブ		赤褐色	赤褐色	赤褐色	灰 土
13 359	1区 下層 49	美	土師器		(15.4)	不明	残存高 (1.6)	ナブ	ナブ					灰 土
14 572	1区 下層 50	美	土師器		(15.4)	不明	残存高 (1.85)	ナブ	ナブ	不明	褐色褐色	赤褐色	赤褐色	灰 土
15 360	1区 下層 51	美	土師器		(16.2)	不明	不明	ナブ	ナブ		褐色褐色	赤褐色	赤褐色	灰 土
16 533	1区 下層 52	美	土師器		(16.4)	不明	残存高 (3.03)	ナブ	ナブ	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	灰 土
17 457	1区 下層 53	美	土師器		(16.2)	不明	残存高 (4.7)	ナブ	ナブ	不明	赤褐色	白っぽい 赤褐色	赤褐色	灰 土
18 379	1区 下層 54	美	土師器		(16.4)	不明	残存高 (2.4)	ナブ	ナブ	不明	褐色褐色	褐色	褐色	灰 土
19 436	1区 下層 55	美	土師器		(16.4)	不明	残存高 (2.4)	ナブ	ナブ	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	灰 土
20 364	1区 下層 56	美	土師器		(16.8)	不明	残存高 (3.8)	ナブ	ナブ		褐色褐色	褐色	褐色	灰 土
21 532	1区 下層 57	美	土師器		(16.4)	不明	残存高 (4.5)	ナブ	ナブ		褐色褐色	褐色	褐色	灰 土
22 611	1区 下層 58	美	土師器		(17.0)	不明	残存高 (2.6)	ナブ	ナブ	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	灰 土
23 1030	1区 下層 59	美	土師器		(18.4)	不明	残存高 (4.55)	ナブ	ナブ		褐色褐色	褐色褐色 (下方に茶色)	褐色褐色	灰 土
3 587	1区 下層 60	美	土師器		(18.8)	不明	残存高 (4.8)	ナブ	ナブ		褐色褐色	褐色褐色	褐色褐色	灰 土
25 445	1区 下層 61	美	土師器		(18.8)	不明	残存高 (4.8)	ナブ	ナブ	不明	褐色褐色	褐色褐色	褐色褐色	灰 土
28 591	1区 下層 62	美	土師器		(20.2)	不明	残存高 (3.1)	ナブ	ナブ		褐色褐色	褐色褐色	褐色褐色	灰 土
27 433	1区 下層 63	美	土師器		(22.4)	不明	残存高 (3.9)	ナブ	ナブ	不明	褐色褐色	褐色	褐色	灰 土
26 406	1区 下層 64	美	土師器		(23.8)	不明	残存高 (3.35)	ナブ	ナブ	不明	褐色褐色	褐色	褐色	灰 土
29 547	1区 下層 65	美	土師器		(21.4)	不明	残存高 (3.35)	ナブ	ナブ	不明	褐色褐色	褐色褐色	褐色褐色	灰 土
30 594	1区 下層 66	美	土師器		(21.4)	不明	残存高 (4.1)	ナブ	ナブ	不明	褐色褐色	褐色褐色	褐色褐色	灰 土

注() 内数字は反転優先の数字

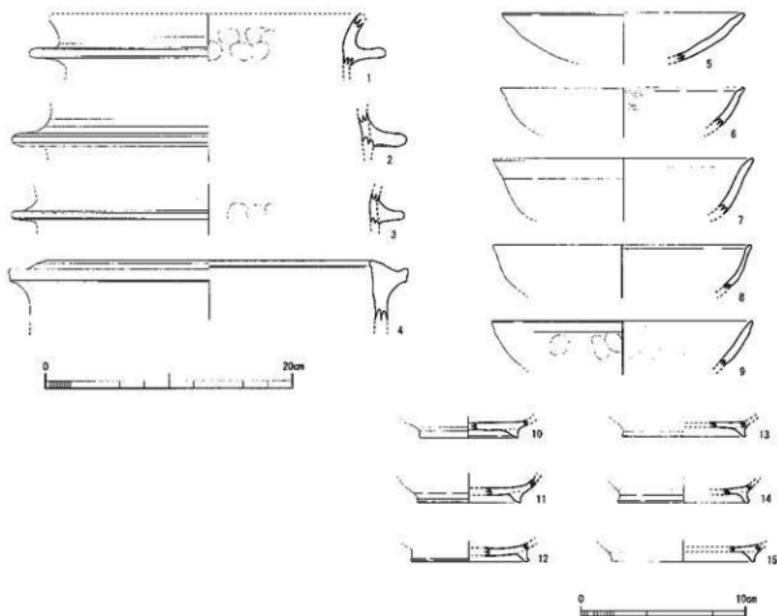


図18 1区 出土土師器 罇甕・土釜・杯・黒色土器(表5)

表5 1区 出土土師器 罇甕・土釜・杯・黒色土器

表号 発掘 番号	出土地点	器種	種類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	器 身			色 調		土質	出土	
								外周	内周	蓋形	外周	内周			
1	423	1区 a2 40cm 甕	埴輪	土師器	8/9C	不明	不明	ナブ	ナブ	不明	暗赤褐色	赤褐色	灰色 赤褐色	良	
2	418	1区 c2 40cm 甕	埴輪	土師器	2004 (32.4)	不明	残存高 (2.75)	ナブ	ナブ	不明	暗赤褐色	黒っぽい 赤褐色	赤褐色	赤良	
3	396	1区 c6 48cm pi123	埴輪	土師器	2004 (26.2)	不明	残存高 (2.6)	ナブ	ナブ	指形蓋	暗褐色	暗褐色	暗褐色	赤良	
4	384	1区 a2 90cm 甕	土釜	土師器	千埴	(38.2)	不明	器高 (4.9)	器高ハケ 器蓋ナブ	ハケ後ナブ	暗赤褐色	淡紫褐色	暗褐色	赤中 良	
5	441	1区 b6 40cm SK49	杯	土師器	9C	(14.6)	不明	残存高 (2.4)	ナブ	ミダキヤ	不明	黄褐色 黒っぽい 赤褐色	黒っぽい 赤褐色	赤良	
6	337	1区 a2 40cm SK49	杯	黒色 土師		(14.6)	不明	残存高 (2.4)	ナブ	ミダキヤ	不明	黒褐色	黒褐色	白っぽい 赤褐色	赤 赤中 良
7	417	1区 c1~c 3層 SP04	杯	土師器		(15.8)	不明	残存高 (2.4)	ナブ?	ナブ?	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	赤良
8	618	1区 a1~ 2層 SP04	杯	土師器		(15.6)	不明	残存高 (2.75)	ナブ?	ミダキヤ	不明	黒褐色	黒褐色	灰白色	赤良
9	472	1区 a6 40cm 甕	杯	黒色 土師		(16.0)	不明	不明	ナブ	ナブ	ナブ	暗褐色	黒色	黒っぽい 赤褐色	赤良
10	629	1区 b6 (2層) 41.8 44 (2層)	杯	土師器		不明	残存高 (1.1)	ナブ	ナブ	ナブ	暗赤褐色	灰白色	暗赤褐色	赤良	
11	446	1区 b6 40cm 甕	杯	土師器		不明	残存高 (1.35)	ナブ	ナブ	ナブ	暗赤褐色	灰白色	暗赤褐色	赤良	
12	445	1区 b6 40cm 甕	杯	土師器		不明	残存高 (1.55)	ナブ	ナブ	ナブ	暗赤褐色	暗赤褐色	赤褐色	赤良	
13	431	1区 b3 30cm S006	杯	土師器		不明	残存高 (0.93)	ナブ	ナブ	ナブ	暗赤褐色	灰白色	暗赤褐色	赤良	
14	442	1区 c3 44.8 44 (2層)	杯	黒色 土師		不明	残存高 (1.15)	ナブ	ミダキヤ?	ナブ	黒色	黒色	暗褐色	赤良	
15	363	1区 a3 90cm 甕	杯	黒色 土師		不明	残存高 (1.96)	ナブ	ナブ	ナブ	暗褐色	暗褐色	暗褐色	赤中 良	

注() 内数字は反転後測定の数値

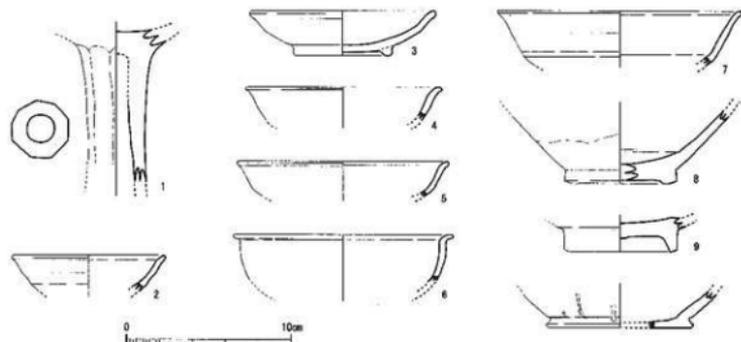


図19 1区 出土土師器 高杯、陶器 (表6)

表6 1区 出土土師器 高杯、陶器

発掘 番号	出土地点	器種	種類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 壁			色 調			出土 状況	
								外面	内面	裏面	外面	内面	断面		
1	1区 a1-2 3区 3004	高杯	土師器	8/9C	特柱径 (3.5)	不明	不明	ヘラ削り後ナゲ	ナゲ	不明	明赤褐色	深赤褐色	赤褐色	同	良
2	477 1区 a6 4C 南側溝	碗	陶器	9/10C	(9.2)	不明	(2.2)	ロクロナゲ 旋地	ロクロナゲ 旋地	不明	緑褐色	黄褐色	白灰色		良
3	1038 1区 a6 4A 西 5X	碗	陶器	不明	(11.0)	6.0	2.78	削り後ナゲ 旋地	ナゲ	不明	黄白色	黄白色 淡緑色 (輪)	黄白色 淡緑色 (輪)	赤	良
4	1293 1区 c6 40号 a1) 5)	碗	陶器	11代	(12.0)	(2.0)	(2.1)	ミガキ 旋地	ミガキ 旋地	不明	白色 淡緑色 (輪)	白色 淡緑色 (輪)	白色	赤	良
5	836 1区 a1 4D 下層	碗	陶器	不明	(10.6)	不明	(2.2)	ミガキ 旋地	ミガキ 旋地	不明	緑がかった 褐色 (紅)	褐色 (輪)	灰褐色	赤	良
6	282 1区 a2 4C 西	碗	陶器	不明	(13.2)	不明	(2.7)	ヘラ削り後ナゲ 旋地	ヘラ削り後ナゲ 旋地	不明	黒色	黒色	黒色	赤	良
7	1007 1区 a4 4A 下層	碗	陶器	不明	(14.9)		(3.5)	ロクロナゲ 旋地	ロクロナゲ 旋地	不明	緑灰色 (輪)	緑灰色 (輪)	灰白色	赤	良
8	485 1区 c2 (南東) 3区 307 上層 4C 西	碗	陶器	不明	(5.4)		(4.4)	ロクロ削り ナゲ、旋地	ロクロ削り 旋地	ナゲ	緑がかった白 色、黄色	緑がかった 白色	白色	赤	良
9	356 1区 a3 4C 西	碗	陶器	不明	(6.8)		(3.05)	ロクロ削り 旋地	ロクロ削り 旋地	不明	赤褐色	灰白色	灰白色	赤	良
10	489 1区 c2 4C 西	碗	陶器	不明	(5.6)		(2.2)	ロクロナゲ	ロクロナゲ	フクロ面転 糸切り器	明灰色	灰白色	灰褐色	赤	良

※：) 内敷輪は反転後光後の状態

第2節 2区出土遺物

1. 須恵器 杯蓋・壺蓋・杯 (図20)

1～17は杯蓋、18は壺蓋である。1は明瞭な宝珠つまみを有する。2は1に比べ扁平な宝珠つまみを有する。5は扁平な宝珠つまみを有し、口縁端部は下方に短く屈曲している。つまみ中央はわずかに凸状になっている。8は扁平な擬宝珠つまみを有し、口縁端部は下方に短く屈曲し丸みを帯びている。18は口縁端部が外反しており、体部との境に沈線を施している。6・7・9・11・15～17は天井部と口縁部との間に段を有する。6・15は平らな天井部を有し、他の杯蓋よりも器高が低い。

19～43は杯で、24～43が高台を有する。19は平坦な底部より体部が外湾しながら立ち上がる。口縁端部内面に段が存在する。20は外反して立ち上がる体部を持ち、口縁部は丸くおさめている。21～23は直線ないしは緩やかに外湾する体部を有する。24は底部近くが外湾し、口縁部付近は外反する。高台は底面端部付近に「ハ」の字状に取り付けられている。29・32・40・42・43は底面両端に高台が取り付けられている。

時期は1が7世紀、2～18・25～28・31・35・36が8世紀、19～24・29・30・32～34・37～43が9世紀である。

2. 須恵器 甕・壺 (図21)

1～3は甕である。1は口縁端部を外側に折り曲げており、断面長方形を呈する。3は突出した平底を有し、体部との境が明瞭である。

4～19は壺である。8・9は口縁端部が肥厚しており、端面は凹状を呈する。また、8は頸部外面に線刻を有する。14は体部に「松井」と縦に線刻されている。

時期は1・2が8世紀、3～6が9世紀、7が中世、8～19が古代である。

3. 土師器 杯・杯蓋・皿 (図22・23)

1～26・28～58・62～66が杯、59・60が杯蓋、27・67～69が皿である。7・8・15・21・45・55は口縁部内面付近に沈線が施されている。5・6・11～14・17・20は口縁部内端の角に段を付けるように沈線が施されている。42は内湾して立ち上がる体部を有する。体部外面は指ナデが施されている。底部内面にはラセン状暗文が施されている。45は体部内外面に横方向のミガキが施されている。体部外面下半には指頭圧痕が見られる。55は体部外面に横方向のミガキが施され、底部内面には暗文が施される。杯は口縁部付近が外反するものが多い。

61～66は底面両端に高台を貼り付けている杯である。61は「ハ」の字状に高台を貼り付けている。63の高台は断面三角形である。59は中央部分がへこみ、60は擬宝珠つまみである。

52・56は内湾する体部と直立する口縁部を有する。強いナデにより直立部分と内湾部分との境が明瞭である。体部外面には指頭圧痕が見られる。

時期は1～15が8世紀、16～69が9世紀である。

4. 土師器 高杯・黒色土器・瓦器・陶磁器 (図24)

1～7は高杯、8・9は瓦器椀、10～13は黒色土器椀、14は磁器椀、15・16は陶器椀、17は黒色土器甕である。1は口縁端部が肥厚しており、体部内面には放射状暗文が施されている。3は体部が緩やかに外湾した後、外反する。体部内面には放射状暗文が施されている。また、口縁部内面に凹線が施されている。5は底部内面に螺旋状暗文が施されている。

8は口縁端部を丸くおさめており、内面には横方向のミガキが施されており、9は口縁部内端の角に段をつけるように沈線が施されている。内面には横方向のミガキが施されている。

10は両黒焼成で、外湾する体部に緩やかに外反する口縁部をもつ。口縁部内端の角に段を付けるように沈線が施されている。内面に斜め方向のミガキが施されている。11は内黒焼成で、外湾する体部に緩やかに外反する口縁部をもつ。口縁部内端の角に段を付けるように沈線が施されている。内面には2～3mm幅の斜め方向のミガキが施されている。12は内黒焼成で外湾する体部をもつ。口縁部内端付近に沈線が施されている。内面には横方向のミガキが緻密に施されている。底部付近には斜め方向のミガキが施されている。

時期は1～7が8世紀、8・9が12～13世紀、10～13が9～10世紀、14～16が近世、17が9世紀である。

5. 土師器 土釜・罏釜 (図25)

1～2は土釜、3～14は罏甕である。1は短い口縁部が直立し、口縁部付近に短く水平方向にのびる罏が付けられている。3・4・9は外反する口縁部をもち、3・9は水平方向にのびる罏を、4は下方向にのびる罏をもつ。3・4は内面に横方向のハケメが施されている。

時期は1・2が中世、3～14が8世紀以降である。

6. 土師器 甕 (図26)

1～30は甕である。1は強く外反する口縁部をもち、口縁端部が肥厚している。2は外反する口縁部をもち、口縁内端が肥厚している。3は外反する口縁をもち口縁端部が肥厚している。4は強く外反する口縁部をもち、口縁部内端が肥厚している。1・4は頸部と体部の最大径が近似している。1～4は外面に縦方向のハケメが施されている。3・4は体部内面に指ナデが施されている。8・9・10・14は頸部に段を有し、口縁部と体部の境目が明瞭である。22は外反する口縁部をもち、口縁端部は外方へ短くのびる。30は短く外方にのびる口縁部をもつ。

時期は1～4が8世紀、5～20・22～29が9世紀、30が中世である。21が古代になる可能性がある。

7. 土師器 鉢 (図27)

1～11は鉢である。2・3・4は内湾する体部から外反する口縁部がのびている。11は内湾する体部をもち、口縁端部は肥厚し凹面を形成している。外面には横方向のヘラ削りと指頭圧痕が見られる。内面には不定方向のミガキが施されている。

時期は1～11すべて9世紀である。

(大矢)

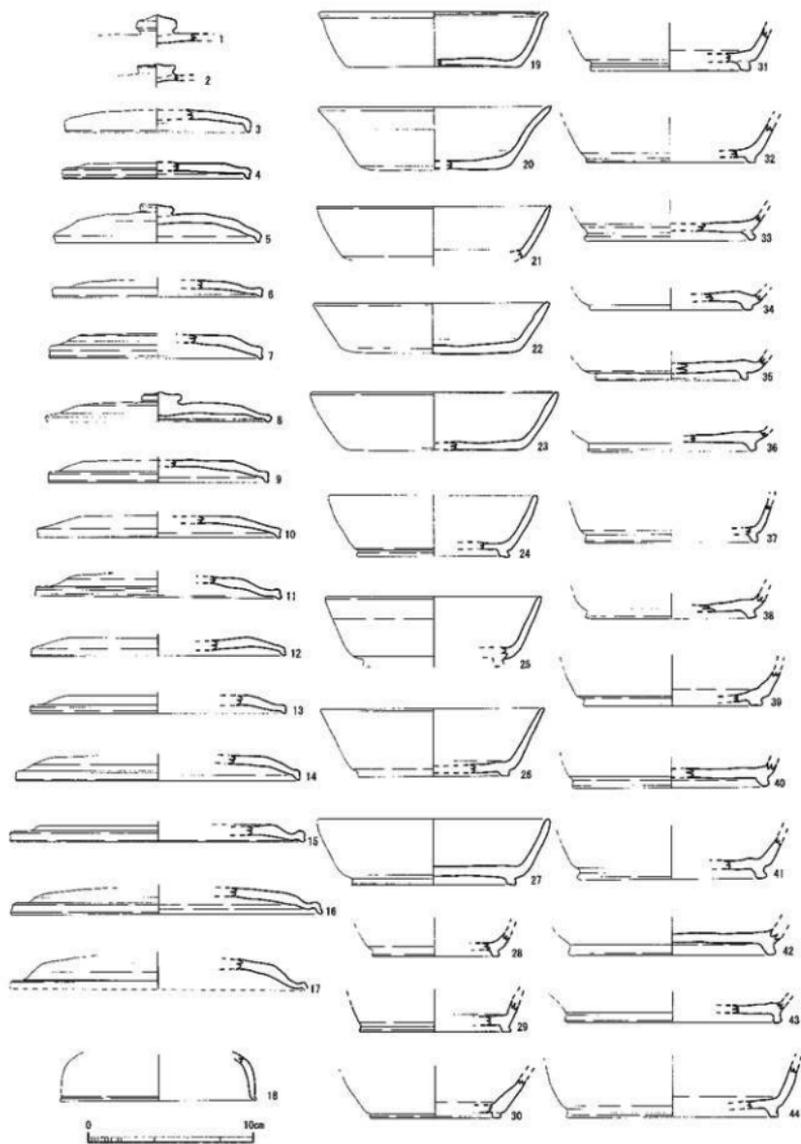


图20 2区 出土须惠器 杯·杯盖 (表7)

表7 2区 出土須臾器 杯・壺蓋

調査 番号	遺跡 番号	出土地点	器種	種類	時代	口径 (cm)	口径 (cm)	口径 (cm)	器 身		色 調		形状	出土 状況	
									外面	内面	外面	内面			
1	80	2区 b1 4A層 S2020	杯蓋	須臾器	7C	不明	2.45	既存高 (1.8)	ナゲ	ナゲ	不明	灰色	灰色	灰色	底 良
2	230	2区 a7 溝溝	杯蓋	須臾器	8C	不明	2.35	既存高 (1.1)	ナゲ	ナゲ	不明	灰色 (やや薄)	灰色 (やや薄)	灰色 (やや薄)	前 良
3	271	2区 b4-3 4A層	杯蓋	須臾器		(11.3)	-	既存高 (1.3)	ナゲ、少量の地 まじりに付着	ナゲ	口縁部は ナゲ	薄灰色	暗灰色	灰色	底 良
4	96	2区 b4 4A層下	杯蓋	須臾器		(11.6)	-	既存高 (0.6)	ロクロナゲ ヘラ削り	ロクロナゲ	口縁部は ヘラ削り	薄灰色	薄灰色	薄灰色	底 良
5	9	2区 b5 SK213	杯蓋	須臾器		(12.0)	2.35	2.0	ナゲ	ナゲ	ナゲ	薄灰色	薄灰色	薄灰色	底 良
6	381	2区 a1 4層	杯蓋	須臾器		(13.0)	-	既存高 (1.0)	ヘラ削りナゲ	ナゲ	口縁部は ナゲ	薄灰色	薄灰色	薄灰色	底 良
7	601	2区 b3 4層	杯蓋	須臾器		(12.8)	-	既存高 (1.4)	ヘラ削り ナゲ	ナゲ	口縁部は ナゲ	薄灰色	薄灰色	薄灰色	前 良
8	179	2区 b5 4A層下	杯蓋	須臾器		(13.9)	2.4	(1.8)	既削ナゲ 削り	ナゲ	口縁部は ナゲ	薄灰色	薄灰色	薄灰色	前 良
9	603	2区 b3 4層	杯蓋	須臾器		(13.4)	-	既存高 (1.8)	ロクロナゲ ヘラ削り	ナゲ	口縁部は ナゲ	薄灰色	薄灰色	薄灰色	前 良
10	603	2区 b3 4層	杯蓋	須臾器		(14.8)	-	既存高 (1.3)	ヘラ削り ナゲ	ナゲ (ロクロナゲ)	ナゲ	薄灰色	薄灰色	薄灰色	底 良
11	71	2区 b6 4B層下	杯蓋	須臾器		(14.9)	-	既存高 (1.2)	ナゲ ヘラ削り	ナゲ	口縁部は ナゲ	薄灰色	薄灰色	薄灰色	前 良
12	154	2区 b4 4A層下	杯蓋	須臾器		(15.4)	-	既存高 (1.2)	ヘラ削りナゲ	ナゲ	ナゲ	薄灰色	薄灰色	薄灰色	底 良
13	174	2区 b5 4A層下	杯蓋	須臾器		(15.0)	不明	不明	不明	不明	不明	灰色	灰色	灰色	底 良
14	108	2区 b5 4A層下	杯蓋	須臾器		(17.3)	-	既存高 (1.3)	ヘラ削り ナゲ	ナゲ	口縁部は ナゲ	薄灰色	薄灰色	薄灰色	前 良
15	68	2区 b6 4B層下	杯蓋	須臾器		(18.0)	-	既存高 (1.6)	ヘラ削り ナゲ	ナゲ	口縁部は ナゲ	灰色	灰色	灰色 (やや薄)	前 中 底 良
16	69	2区 b6 4B層下	杯蓋	須臾器		(19.2)	-	既存高 (1.6)	(コクロナゲ)ヘラ 削り、ナゲ	ナゲ	口縁部は ナゲ	薄灰色	薄灰色	薄灰色	前 良
17	52	2区 b1 4B層 S2027	杯蓋	須臾器		(18.0)	不明	既存高 (1.8)	ヘラ削り ナゲ	ナゲ	不明	灰色 (やや薄)	灰色	灰色	底 良
18	66	2区 b5 4B層 S2024	杯蓋	須臾器		(11.8)	不明	既存高 (1.8)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	赤褐色	緑黄色		底 良
19	51	2区 b1 4B層 S2027	杯蓋	須臾器	9C	(13.9)	10.4	3.2	ナゲ、口縁部は ヘラ削り	ナゲ	ナゲ	褐色	褐色	褐色	前 良
20	91	2区 b4 4A層下	杯蓋	須臾器		(14.2)	(9.2)	3.8	ロクロナゲ	ロクロナゲ	ヘラ削り (ロ クロナゲ) 後、ナゲ	薄灰色 (ロク ロナゲ)	薄灰色 (ロク ロナゲ)	薄灰色 (ロク ロナゲ)	底 良
21	153	2区 b1 4A層下	杯蓋	須臾器		(14.2)	不明	不明	ナゲ	ナゲ	不明	薄灰色	暗灰色	灰色	底 良
22	138	2区 b4 4A層下	杯蓋	須臾器		14.2	9.8	3.1	既ナゲ	既ナゲ	既ナゲ	薄灰色	暗灰色	暗灰色	底 良
23	93	2区 b4 4A層下	杯蓋	須臾器		(15.2)	(11.0)	3.5	ナゲ	ナゲ	ヘラ削り (ロク ロナゲ)ヘラ削り	薄灰色	薄灰色	薄灰色	前 良
24	96	2区 b4 4A層下	杯蓋	須臾器		(12.3)	(9.1)	3.75	ナゲ ヘラ削り	ナゲ	ナゲ	薄灰色	灰色	赤みがかった 灰色	前 良
25	105	2区 a1 4B層下	杯蓋	須臾器	8C	13.2	不明	既存高 (4.0)	四輪横ナゲ	四輪横ナゲ	ナゲ	灰白色	灰白色	灰白色	前 良
26	328	2区 a2 4B層 S2025	杯蓋	須臾器		(13.3)	(8.8)	(4.16)	ナゲ コクロナゲ	ナゲ コクロナゲ	ナゲ	暗灰色	灰色 (やや薄)	灰色 (やや薄)	底 良
27	11	2区 b6 4B層 S2010	杯蓋	須臾器		(14.0)	(10.0)	4.0	ナゲ	ナゲ	ナゲ	灰色 (やや薄)	灰色 (やや薄)	灰色 (やや薄)	底 良
28	247	2区 a1 2B層 30層下	杯蓋	須臾器		不明	(7.9)	既存高 (1.5)	ロクロナゲ	ロクロナゲ	ヘラ削りナゲ	薄灰色	薄灰色	薄灰色	底 良
29	270	2区 b1-3 溝溝	杯蓋	須臾器	9C	不明	(9.0)	既存高 (1.9)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	薄灰色	灰色	薄灰色	前 良
30	337	2区 a6 4B層 S2023	杯蓋	須臾器		不明	(7.9)	既存高 (2.4)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	白灰色	白灰色	白灰色	前 中
31	112	2区 b5 4A層下	杯蓋	須臾器	8C	不明	(9.3)	既存高 (2.1)	ロクロナゲ	ロクロナゲ	ナゲ ヘラ削り	薄灰色	薄灰色	薄灰色	前 良
32	85	2区 a1 4B層下	杯蓋	須臾器		不明	(10.1)	既存高 (2.4)	ナゲ ヘラ削り	ナゲ	ナゲ	灰白色	白灰色		前 中 底 良
33	182	2区 a6 4A層下	杯蓋	須臾器		不明	(10.4)	既存高 (2.15)	ナゲ	ロクロナゲ	ヘラ削りナゲ	灰色がかった 灰色	暗灰色	暗灰色	前 良
34	161	2区 b4 4A層下	杯蓋	須臾器		不明	(10.1)	不明	ナゲ	ナゲ	ナゲ	薄灰色	灰色	灰色 (やや薄)	底 良
35	73	2区 a1 4B層下	杯蓋	須臾器	8C	不明	(8.2)	不明	ナゲ	ナゲ	ナゲ	薄灰色 (既削灰色)	灰色		底 良
36	178	2区 b5 4A層下	杯蓋	須臾器		不明	(10.0)	不明	ナゲ	ナゲ	ヘラ削り	明白色	明白色	白っぽい灰色	底 良
37	113	2区 b4 4A層下	杯蓋	須臾器	9C	不明	(10.4)	既存高 (2.3)	ナゲ 薄削	ナゲ 薄削	ナゲ	薄薄赤色 (既削)	薄薄赤色 (既削)	薄薄赤色 (既削)	前 中 底 良
38	210	2区 b1 4B層 S2027	杯蓋	須臾器		不明	(10.4)	不明	ナゲ	ナゲ	ナゲ	灰色	灰色	灰色	底 良
39	248	2区 a2 2B層 30層下	杯蓋	須臾器		不明	(10.6)	不明	ロクロナゲ	ロクロナゲ	ヘラ削り ヘラ削りナゲ	薄灰色	薄灰色	薄灰色	前 中 底 良
40	98	2区 b4 4A層下	杯蓋	須臾器		不明	(12.0)	不明	ナゲ	ナゲ	ナゲ	薄灰色	灰色	灰色 (やや薄)	底 良
41	72	2区 a1 4B層下	杯蓋	須臾器		不明	(11.6)	既存高 (1.2)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	灰色	暗灰色	暗灰色	前 中 底 良
42	261	2区 b1 2B層 S2125	杯蓋	須臾器		不明	(13.7)	不明	ロクロナゲ	ロクロナゲ	ナゲ ヘラ削りナゲ	薄灰色	薄灰色	薄灰色	前 中 底 良
43	70	2区 a1-2 北溝	杯蓋	須臾器		不明	(13.0)	不明	ヘラ削り ナゲ	ナゲ	ナゲ	灰色	灰色		底 良

明()内数字は反転後5種の数量

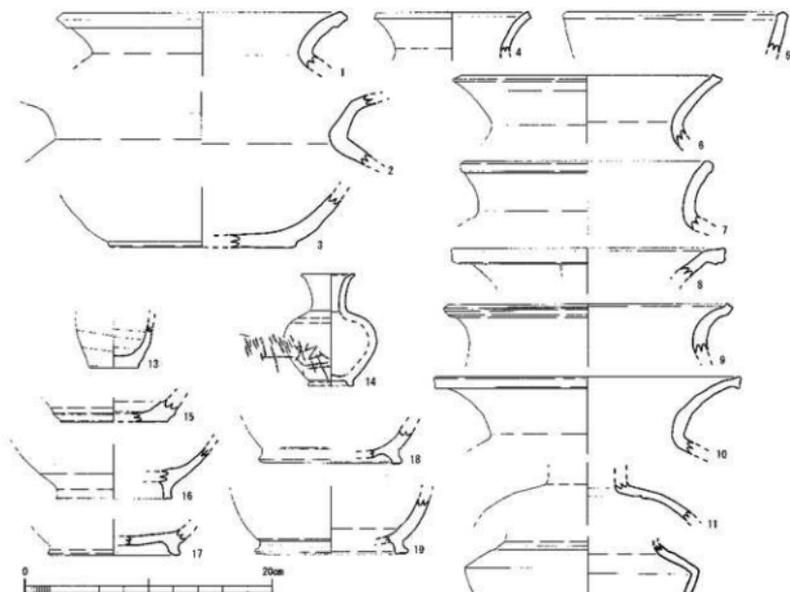


図21 2区 出土須恵器 甕・壺 (表8)

表8 2区 出土須恵器 甕・壺

発掘 番号	出土地点	器種	種類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	装 飾				色 澤			胎土	焼成
								外周	内面	底面	口内	外周	内面	底面		
1	279 2区 a5 18cm SK233	甕	須恵器	8/C	(22.4)	不明	残存高 (4.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	褐色	褐色	褐色 (口内灰)	赤	良	
2	607 2区 b5 4cm	鉢	須恵器	不明	不明	残存高 (23.6)	ナデ	ナデ	ナデ	不明	褐色	褐色	褐色	赤	良	
3	253 2区 a1 31cm SK199	甕	須恵器	9/C	不明	(15.2)	残存高 (4.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	褐色	褐色	褐色	赤	良	
4	238 2区 a5 30cm SK130	壺	十部器	不明	(12.4)	不明	残存高 (3.2)	ナデ	ナデ	不明	褐色	褐色	褐色	赤	良	
5	66 2区 a1 40cm	壺	須恵器	(11.2)	不明	残存高 (3.2)	ナデ	ナデ	ナデ	不明	褐色	褐色	褐色	赤	良	
6	55 2区 a2 45cm	壺	須恵器	(21.6)	不明	残存高 (3.7)	ナデ	ナデ	ナデ	不明	褐色	褐色	褐色	赤	良	
7	198 2区 a2-3 44cm	壺	土師器	中世	(20.4)	不明	残存高 (5.6)	ナデ	ナデ	不明	褐色	褐色	褐色	赤	良	
8	260 2区 a1 40cm	壺	須恵器	8/C	(21.9)	不明	残存高 (2.3)	ナデ	ナデ	不明	褐色	褐色	褐色	赤	良	
9	30 2区 a1-7 44cm	壺	須恵器	(23.1)	不明	残存高 (3.8)	ナデ	ナデ	ナデ	不明	褐色	褐色	褐色	赤	良	
10	107 2区 b3 44cm	壺	須恵器	(24.6)	不明	残存高 (6.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	褐色	褐色	褐色	赤	良		
11	59 2区 b3 40cm SK216	壺	須恵器	不明	不明	残存高 (3.4)	ナデ	ナデ	不明	褐色	褐色	褐色	赤	良		
12	61 2区 b3 40cm SK1155	壺	須恵器	最大径 (18.8)	不明	残存高 (8.1)	ナデ	ナデ	不明	褐色	褐色	褐色	赤	良		
13	333 2区 a5 40cm SK235	壺	須恵器	不明	不明	残存高 (3.6)	ロクロ引き	ロクロ引き	不明	褐色	褐色	褐色	赤	良		
14	1043 2区 b5 40cm SK249	壺	須恵器	4.3	3.7	9.06	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	褐色	褐色	褐色	赤	良		
15	208 2区 b1 40cm SK237	壺	須恵器	4.3	8.6	残存高 (1.3)	ナデ	ナデ	不明	褐色	褐色	褐色	赤	良		
16	55 2区 b5 40cm SK209	壺	須恵器	不明	(9.1)	残存高 (4.3)	ナデ	ナデ	不明	褐色	褐色	褐色	赤	良		
17	262 2区 a1 40cm	壺	須恵器	不明	(10.4)	残存高 (2.2)	ナデ	ナデ	不明	褐色	褐色	褐色	赤	良		
18	330 2区 a7 40cm SK235	壺	須恵器	不明	(11.6)	残存高 (2.7)	ナデ	ナデ	不明	褐色	褐色	褐色	赤	良		
19	211 2区 a7 30cm SK129	壺	須恵器	不明	(12.1)	残存高 (4.4)	ロクロナデ	ナデ	ナデ	不明	褐色	褐色	褐色	赤	良	

※() 内数字は反転復元後の数値

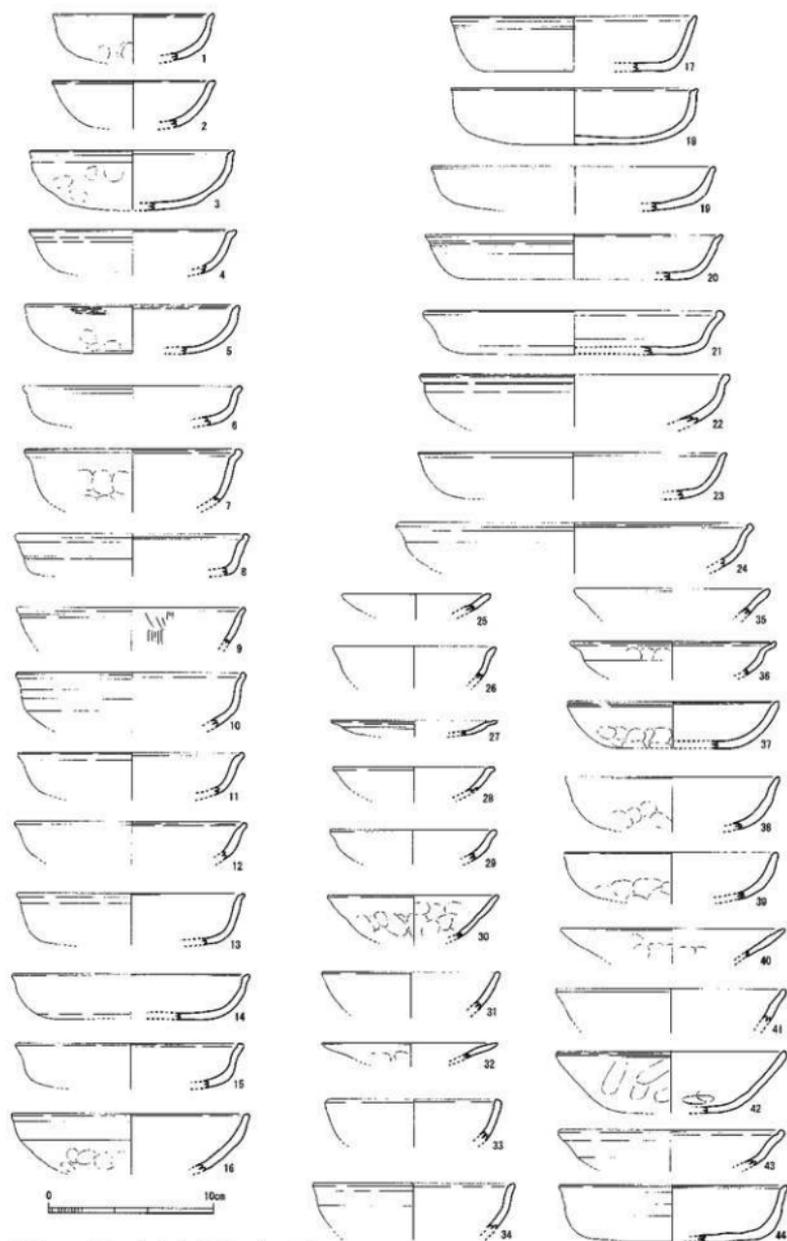


图22 2区出土土师器 杯 (表9)

表9 2区 出土土師器 杯

発掘 番号	遺構 番号	出土地点	器種	種類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	外周		内周		底縁	色 澤			出土 状況
									外面	内面	外面	内面		外面	内面	底面	
1	306	2区 b4 4A層下	杯	土師器		8.0	(9.8)	不明	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	白っぽい 赤褐色	赤褐色	白っぽい 赤褐色	赤兵
2	306	2区 a5 4B層	杯	土師器		(9.9)	不明	残存高 (2.8)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	薄赤褐色 (赤色に近い)	薄赤褐色 (赤色に近い)	薄赤褐色 (赤色に近い)	赤兵
3	145	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(12.0)	不明	残存高 (約3.7)	ヘラ削り ナブ	ヘラ削り ナブ	ナブ	不明	不明	黄褐色	黄褐色		赤兵
4	166	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(12.8)	不明	(2.6)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	薄赤褐色	薄赤褐色	薄赤褐色	赤兵
5	125	2区 a5 4A層下	杯	土師器		(13.2)	不明	残存高 (3.0)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	明赤褐色	薄赤褐色	明赤褐色	赤兵
6	182	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(13.4)	不明	(3.4)	ナブ、口縁部ヘ ラで削られたナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	赤兵
7	269	2区 b4・3 4B層	杯	土師器		(13.2)	不明	残存高 (3.2)	ナブ 底縁	ナブ	ナブ	不明	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	赤兵
8	298	2区 b4 30号	杯	土師器		(14.2)	不明	(2.5)	ナブ	ナブ	ナブ、口縁部削 り上段	不明	不明	薄赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	赤兵
9	289	2区 b4 4面柱穴内	杯	土師器		(14.0)	不明	(3.4)	ナブ、口縁部削 り上段(注)	ナブ	ナブ	不明	不明	薄赤褐色	赤褐色	薄赤褐色	赤兵
10	290	2区 4面柱穴内	杯	土師器		(14.0)	不明	(3.4)	ナブ	ナブ	ナブ、口縁部削 り上段(注)	不明	不明	薄赤褐色	明赤褐色	薄赤褐色	赤兵
11	341	2区 a5 4B層	杯	土師器		(13.8)	不明	(2.5)	ナブ	ナブ	ナブ、口縁部削 り上段(注)	不明	不明	薄赤褐色	明赤褐色	薄赤褐色	赤兵
12	310	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(14.2)	不明	(2.3)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	暗赤褐色	暗赤褐色	暗赤褐色	赤兵
13	609	2区 b3 4面	杯	土師器		(13.8)	不明	(3.2)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	明赤褐色	赤褐色	明赤褐色	赤兵
14	122	2区 b3 4A層下	杯	土師器		(11.4)	不明	残存高 (2.75)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	明赤褐色	黄褐色	明赤褐色 → 赤褐色	赤兵
15	345	2区 b4 4面	杯	土師器		13.9	不明	残存高 (2.7)	横ナブ	横ナブ	横ナブ	不明	不明	橙褐色	橙褐色	橙褐色	赤兵
16	283	2区 b4 30号	杯	土師器		14.3	不明	(3.5)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	薄赤褐色	薄赤褐色	薄赤褐色	赤兵
17	3	2区 b4 4B層	杯	土師器		(14.8)	(10.6)	3.3	ナブ	ナブ	ナブ、口縁部削 り上段	不明	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	赤兵
18	21	2区 a5 4B層	杯	土師器		(14.9)		3.4	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	白っぽい 赤褐色	暗赤褐色	赤褐色 → 黄褐色	赤兵
19	12	2区 a5 4B層	杯	土師器		(17.4)	不明	残存高 (2.63)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	赤兵
20	285	2区 b4 30号	杯	土師器		(15.0)	不明	(2.8)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	薄赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	赤兵
21	121	2区 a5 4A層下	杯	土師器		(18.4)	不明	残存高 (2.65)	ナブ(口縁)	ナブ	ナブ	不明	不明	明赤褐色	薄赤褐色	明赤褐色	赤兵
22	145	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(19.0)	不明	(3.0)	ヘラ削り ナブ	ヘラ削り ナブ	ナブ	不明	不明	黄褐色	黄褐色		赤兵
23	48	2区 a5 4B層	杯	土師器		19.0	不明	残存高 (2.8)	横ナブ	横ナブ	横ナブ	不明	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	赤兵
24	153	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(22.0)	不明	(3.0)	ナブ	ナブ	ナブ、口縁部削 り上段	不明	不明	薄赤褐色	薄赤褐色	薄赤褐色	赤兵
25	326	2区 a5 4B層	杯	土師器		(9.2)	不明	残存高 (1.1)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	黄褐色	黄褐色	黄褐色 (ほぼ白色)	赤兵
26	274	2区 b4 30号	杯	土師器		(10.0)	不明	(2.0)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	明赤褐色 (やや赤)	明赤褐色 (やや赤)	明赤褐色 (やや赤)	赤兵
27	281	2区 4面柱穴内	杯	土師器		(16.0)	不明	(0.7)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	赤兵
28	227	2区 a5 30号	杯	土師器		(9.8)	不明	(1.5)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	薄赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	赤兵
29	229	2区 a5 30号	杯	土師器		(10.0)	不明	残存高 (1.9)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	薄赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	赤兵
30	338	2区 a5 4B層	杯	土師器		(10.3)	不明	残存高 (2.6)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	赤褐色	薄赤褐色	暗赤褐色	赤兵
31	232	2区 a5 30号	杯	土師器		(10.7)	不明	(2.2)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	赤兵
32	265	2区 a1 4面	杯	土師器		(10.5)	不明	残存高 (0.9)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	薄赤褐色	薄赤褐色	薄赤褐色	赤兵
33	133	2区 a5 4A層下	杯	土師器		(10.8)	不明	残存高 (2.5)	ナブ ミガキ?	ナブ	ナブ	不明	不明	明赤褐色 (やや赤)	明赤褐色 (やや赤)	明赤褐色 (やや赤)	赤兵
34	156	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(12.2)	不明	不明	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	薄赤褐色	薄赤褐色	薄赤褐色	赤兵
35	225	2区 a5 30号	杯	土師器		(13.0)	不明	残存高 (1.55)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	黄褐色	黄褐色	明赤褐色 (ほぼ白色)	赤兵
36	266	2区 a1 4面	杯	土師器		(12.0)	不明	不明	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	薄赤褐色	薄赤褐色	薄赤褐色	赤兵
37	90	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(13.0)	不明	不明	ミガキ?	ミガキ?	不明	不明	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	赤兵
38	244	2区 b4 4面	杯	土師器		(13.2)	不明	残存高 (2.2)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	暗赤褐色	暗赤褐色	暗赤褐色	赤兵
39	277	2区 b4・3 4B層	杯	土師器		(12.8)	不明	残存高 (2.8)	ナブ 底縁	ナブ	ナブ	不明	不明	暗赤褐色	暗赤褐色	暗赤褐色	赤兵
40	236	2区 b4・3 4B層	杯	土師器		(13.7)	不明	残存高 (2.8)	ナブ 底縁	ナブ	ナブ	不明	不明	薄赤褐色	薄赤褐色	薄赤褐色	赤兵
41	354	2区 b4・3 4B層	杯	土師器		(13.8)	不明	残存高 (2.0)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	赤兵
42	59	2区 b3 4B層	杯	土師器		(14.2)	不明	(2.0)	ナブ	ナブ	ナブ、口縁部削 り上段(注)	不明	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	赤兵
43	223	2区 a5 30号	杯	土師器		(13.6)	不明	残存高 (3.7)	ナブ	ナブ	ナブ	不明	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤兵
44	141	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(14.0)	不明	残存高 (3.0)	ヘラ削り ナブ	ヘラ削り ナブ	ナブ	不明	不明	黄褐色	白っぽい 黄褐色		赤兵

注() 内数字は反転後の数値

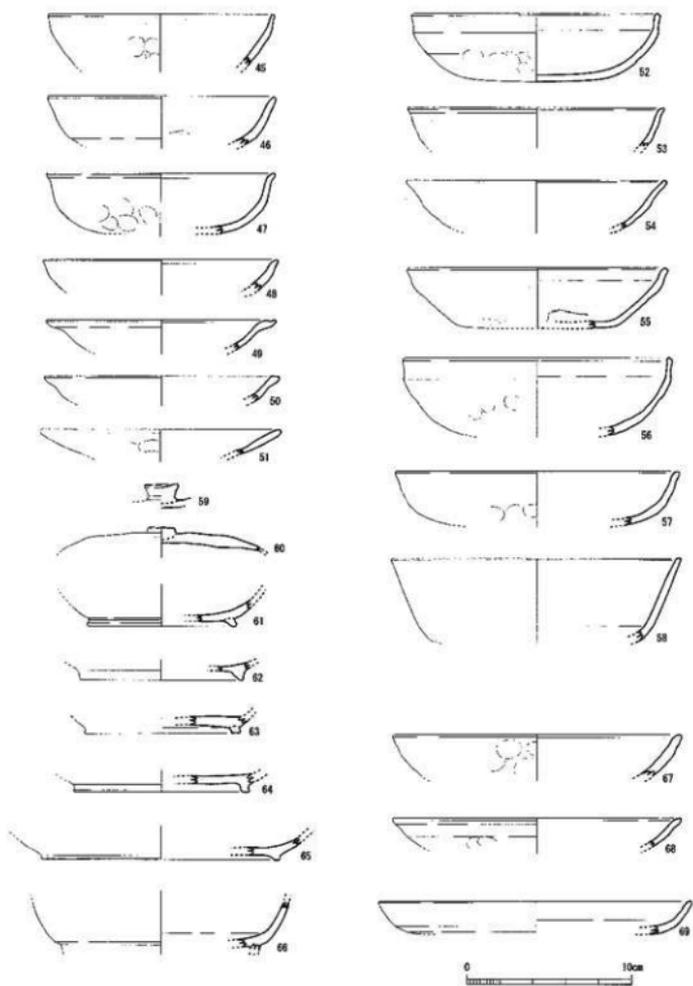


图23 2区 出土土師器 杯·杯蓋·皿 (表10)

表10 2区 出土土師器 杯・杯蓋・皿

発掘番号	発掘地点	器種	種類	時代	口径 (cm)	高さ (cm)	容量 (ml)	器 質			色 調			出土 状況	
								内蓋	内蓋	内蓋	内蓋	内蓋	内蓋		
45 303	2区 b4 4A層下	杯	土師器	9C	13.5	不明	残存高 (3.2)	ナゲ	ナゲ	不明	不明	灰褐色	灰褐色	灰褐色	底 片
56 4	2区 c5 4B層 3K152	杯	土師器		(13.8)	不明	残存高 (2.9)	ナゲ	ナゲ 一部ヘケ	不明	不明	灰褐色	灰褐色	灰褐色	底 片
57 301	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(13.8)	不明	残存高 (3.7)	ナゲ	ナゲ	不明	不明	灰褐色	灰褐色	灰褐色	底 片
48 64	2区 a1	杯	土師器		(14.3)	不明	残存高 (1.9)	ヘケ取り ナゲ	ナゲ			灰褐色	灰褐色 (厚・鉄分多)	灰褐色	底 片
49 238	2区 a0 30層 80/130	杯	土師器		(14.1)	不明	残存高 (1.9)	ナゲ 底付	ナゲ 底付	不明	不明	灰褐色	灰褐色	灰褐色	底 片
50 129	2区 b3 4A層下	杯	土師器		(14.4)	不明	残存高 (1.9)	ナゲ ミガキケ	ナゲ	不明	不明	薄明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	底 片
51 231	2区 b5 36層 3D層下	杯	土師器		(14.6)	不明	残存高 (1.5)	ナゲ	ナゲ (ミガキケ?)	不明	不明	赤褐色 (やや暗)	赤褐色	赤褐色	底 片
52 284	2区 b5 36層 3D層 31.87	杯	土師器		(15.1)	(7.0)	4.1	ナゲ 底付底	ナゲ	ナゲ	ナゲ	赤褐色	薄明赤褐色	赤褐色	底 片
53 50	2区 b4 40層 p11221	杯	土師器		15.6	不明	残存高 (5.2)	横ナゲ	横ナゲ			赤褐色	明褐色	明褐色	底 片
54 130	2区 b3 4A層下	杯	土師器		(15.6)	不明	残存高 (2.9)	ミガキ	ナゲ、口縁部 ヘケコ筋ナゲ	不明	不明	明赤褐色	薄明赤褐色	薄明赤褐色	底 片
55 302	2区 b3 4A層下	杯	土師器		(15.6)	不明	残存高 (3.9)	ナゲ ミガキ	ナゲ、ミガキ部 ナゲ、底付	不明	不明	明赤褐色	白っぽい 灰褐色	明赤褐色	底 片
56 287	2区 c5 31.187	杯	土師器		(16.4)	(8.0)	残存高 (4.0)	ナゲ 底付底	ナゲ	ナゲ	ナゲ	薄明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	底 片
57 179	2区 b5 4A層下	杯	土師器		(17.2)	不明	残存高 (3.3)	ナゲ	ナゲ	ヘケ	不明	赤褐色	白明赤褐色	赤褐色	底 片
58 5	2区 b5 36層 3D層	杯	土師器		(17.6)	不明	残存高 (5.0)	ナゲ	ナゲ	不明	不明	灰褐色	灰褐色	灰褐色	底 片
59 234	2区 b6 30層 3D層下	杯蓋	土師器		不明	不明	残存高 (1.4)	ナゲ	ナゲ	不明	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	底 片
60 280	2区 a8 40層 3D層	杯蓋	土師器		不明	不明	残存高 (1.5)	ナゲ ヘケ取り底ナゲ	ナゲ ヘケ取り底ナゲ	不明	不明	灰褐色	灰褐色 (やや暗)	薄明赤褐色 暗赤褐色	底 片
61 113	2区 b3 4A層下	杯	土師器		不明	(9.2)	残存高 (1.66)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	底 片
62 62	2区 a0 49層下	杯	土師器		不明	(9.4)	残存高 (1.66)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	白色	明赤褐色 (ほぼ白色)	明赤褐色 (ほぼ白色)	底 片
63 253	2区 a1 30層 3D層下	杯	土師器		不明	(10.1)	残存高 (1.15)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	灰褐色	暗褐色	薄赤褐色	底 片 中心部
64 331	2区 b5 4層	杯	土師器		不明	(10.5)	残存高 (1.1)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	灰白色	灰白色	灰白色	底 片 中心部
65 239	2区 a5 36層 3D層	杯	土師器		不明	(14.4)	残存高 (1.33)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	明赤褐色	薄明赤褐色 (赤色に若干)	薄明赤褐色 (赤色に若干)	底 片
66 7	2区 b4 40層 p.1212	杯	土師器		不明	不明	不明	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ヘケ取り	灰褐色 (やや暗)	灰褐色 (やや暗)	灰褐色 (やや暗)	底 片
67 304	2区 b4 4A層下	皿	土師器		(17.4)	不明	残存高 (2.55)	ナゲ	ナゲ	不明	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	底 片
68 18	2区 b3 40層 p11224	皿	土師器		(17.4)	不明	残存高 (1.76)	ナゲ	ナゲ	不明	不明	赤褐色	薄赤褐色	薄赤褐色	底 片
69 97	2区 b4 4A層下	皿	土師器		(18.9)	不明	残存高 (2.05)	ナゲ	ナゲ	不明	不明	灰褐色 (やや暗)	灰褐色 (やや暗)	灰褐色	底 片

表1) 内蓋は316杯と推定される

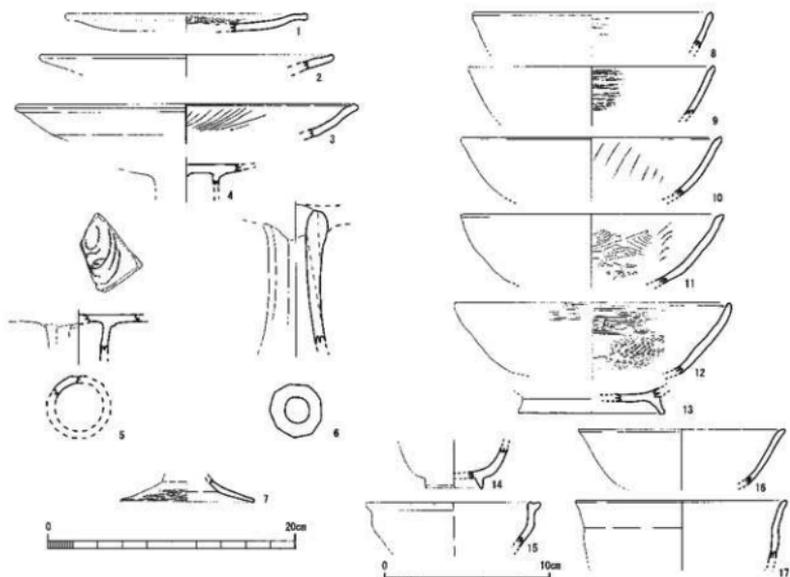


図24 2区 出土土師器 高杯・黒色土器・瓦器・陶磁器 (表11)

表11 2区 出土土師器 高杯・黒色土器・瓦器・陶磁器

発掘 番号	出土地点	器種	種類	時代	口径 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	器 型			色 調			胎土・焼成	
								内裏	内裏	底裏	内面	外面	新裏		
1 175	2区 b6 4A層下	高杯	土師器	8C	(19.6)	不発	残存高 (1.4)	削り取ナゲ	ミガキ(凹状)	不明	明赤褐色	白っぽい 赤褐色	明赤褐色	粗	良
2 200	2区 a2~3 4A層下	高杯	土師器	不明	(23.9)	不明	残存高 (1.2)	ミガキ	磨滅 ミガキ少	不明	紅色	赤色	薄赤色	粗	良
3 147	2区 b4 4A層下	高杯	土師器	不明	(28.6)	不明	残存高 (2.8)	ナゲ	ナゲ、口縁部 わずかに凹状ナゲ	不明	薄赤褐色	明赤褐色	明赤褐色 (やや薄)	粗	良
4 162	2区 b4 4A層下	高杯	土師器	不明	不明	不明	残存高 (0.6)	ナゲ	ナゲ、口縁部 一部へうで凹状	不明	明赤褐色	薄赤褐色	明赤褐色	粗	良
5 3	2区 b4 4B層 50227	高杯	土師器	不明	不明	不明	残存高 (3.3)	へうれり、ナゲ (赤褐色ミガキ、磨滅)	ナゲ	不明	明赤褐色	薄赤褐色	明赤褐色	粗	良
6 83	2区 a3 4B層	高杯	土師器	脚柱状	(15.2)	不明	残存高 (1.2)	へうれり(9面)	ナゲ	不明	明赤褐色	赤褐色	明赤褐色	粗	良
7 209	2区 b1 4B層 50227	高杯	土師器	不明	(10.9)	不明	残存高 (2.0)	へうれり	削り取ナゲ	不明	赤褐色	薄赤褐色	薄赤褐色	粗	良
8 223	2区 a7 3D層	碗	瓦器	12/13C	(14.6)	不明	残存高 (2.35)	ナゲ	ナゲ	不明	薄赤色	薄赤褐色	薄赤褐色	粗	良
9 272	2区 b1~3 3D層	碗	瓦器	不明	(15.4)	不明	残存高 (2.9)	ナゲ	ミガキ、口縁部 へうで凹	不明	薄赤色	薄赤褐色	薄赤褐色	粗	良
10 317	2区 b5 4B層	碗	瓦器	9/10C	(15.3)	不明	残存高 (3.6)	磨滅 ミガキヤ	ミガキ、口縁部 へうで凹	不明	薄赤褐色	黒色	薄赤褐色	粗	良
11 348	2区 b5 4B層	碗	瓦器	不明	(15.9)	不明	残存高 (4.2)	横ナゲ 磨滅	ミガキ、凹状 口縁部、縦ナゲ	不明	薄赤褐色	黒色	薄赤褐色 (ほぼ白色)	粗	良
12 236	2区 a5 4B層 50235	碗	瓦器	不明	(17.6)	不明	残存高 (4.3)	ミガキ 削り取ナゲ	ミガキ 凹状口縁部	不明	薄赤褐色 (緑褐色)	赤褐色	薄赤褐色	粗	良
13 36	2区 a2 4B層上	碗	瓦器	不明	(8.3)	不明	残存高 (1.1)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	薄赤褐色	赤褐色	薄赤褐色	粗	良
14 274	2区 3F層 50120	碗	瓦器	近世	不明	不明	残存高 (2.45)	ミガキ(磨滅)、 凹状口縁部、 凹状口縁部	ミガキ(磨滅)	不明	薄赤褐色	赤褐色 (ほとんど青み)	赤褐色	粗	良
15 308	2区 b4 4B層下	碗	瓦器	不明	(10.6)	不明	残存高 (2.7)	ナゲ	ナゲ	不明	薄赤褐色	赤褐色	薄赤褐色	粗	良
16 349	2区 b5 4B層	碗	瓦器	12~7	不明	不明	残存高 (2.7)	凹状口縁部 縦ナゲ	凹状口縁部 縦ナゲ	不明	赤褐色、 赤褐色、 赤褐色	灰白色、 赤褐色、 赤褐色	灰白色	粗	良
17 31	2区 a1~7 4B層	碗	瓦器	9C	(12.6)	不明	残存高 (3.5)	ナゲ	ナゲ	不明	赤褐色	赤褐色 (ほぼ黒色)	赤褐色 (ほぼ黒色)	粗	良

※() 内数値は反転置換後の数値

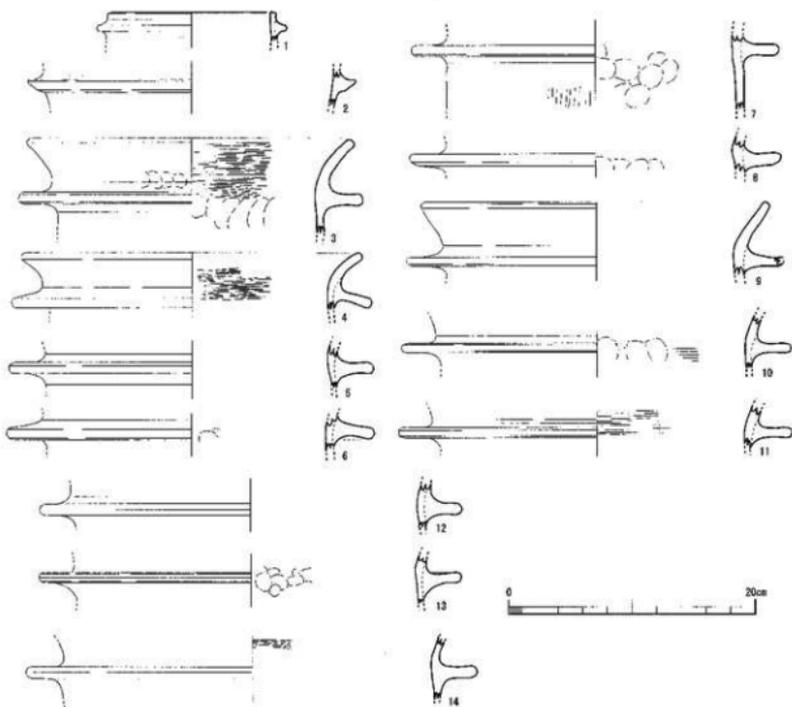


図25 2区 出土土師器 銅甕・土釜 (表12)

表12 2区 出土土師器 銅甕・土釜

表出 番号	遺物 番号	出土地点	層位	種類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胴 部			色 澤			出土 状況
									外蓋	内蓋	底部	外蓋	内蓋	底部	
1	214	2区 a1 東端 19 (東端) 212 2区上層	二層	土師器	中世	(13.6)	不明	残存高 (2.4)	ナダ	ナダ	不明	黒褐色	内底 黒褐色 (ほぼ白色)	断面 黒褐色 (ほぼ白色)	前・後
2	249	2区 a2 31面 30層下	二層	土師器	不明	(26.6)	不明	残存高 (2.7)	ナダ 蓋無	ナダ 蓋無	不明	褐色	褐色	褐色	前・後
3	195	2区 b2 1A面	銅甕	土師器	8C~	(26.4)	不明	残存高 (7.45)	ナダ	蓋ナダ、噴ナダ ハケ	不明	灰白色	赤褐色	赤褐色	前・後
4	318	2区 b4-5 44面 28122	銅甕	土師器		(27.6)	不明	残存高 (4.8)	蓋ナダ 蓋ハケ	蓋ナダ 蓋ハケ	ハケ	褐色	赤褐色 (全々軽)	赤褐色	前・後
5	319	2区 b4-5 44面 28122	銅甕	土師器		(29.6)	不明	残存高 (2.9)	ナダ	ナダ	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	前・後
6	212	2区 a5 30面 S0129	銅甕	土師器		(29.8)	不明	残存高 (1.4)	ナダ	ナダ	不明	赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	前・後
7	314	2区 b4 44層上	銅甕	土師器	初層位	(29.6)	不明	残存高 (5.7)	ハケ、ナダ スリ付	ナダ 洞仁底	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	前・後
8	75	2区 b5 48層下	銅甕	土師器		(29.8)	不明	残存高 (2.8)	ナダ	ナダ 蓋ハケ	不明	赤褐色	黒褐色	赤褐色 (全々軽)	前・後
9	100	2区 b4 44層上	銅甕	土師器		(28.9)	不明	残存高 (6.6)	ナダ	ナダ	不明	明赤褐色	赤褐色	明赤褐色	前・後
10	203	2区 a2~3 44層上	銅甕	土師器		(31.2)	不明	残存高 (4.2)	ナダ	ナダ	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	前
11	196	2区 a3 1A面	銅甕	土師器		(31.6)	不明	残存高 (3.6)	ハケ	噴ナダ	不明	褐色/茶色	褐色/茶色	褐色/茶色	前・後
12	204	2区 a3 48面 28235	銅甕	土師器		(34.2)	不明	残存高 (3.7)	ナダ	ハケ蓋ナダ?	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	前・後
13	312	2区 b4 44層下	銅甕	土師器		(34.0)	不明	残存高 (2.9)	ナダ	ナダ 蓋ハケ	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	前・後
14	44	2区 a5 38152	銅甕	土師器		(26.4)	不明	残存高 (5.1)	ナダ	ナダ	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	前

注() 内は蓋付状態での撮影

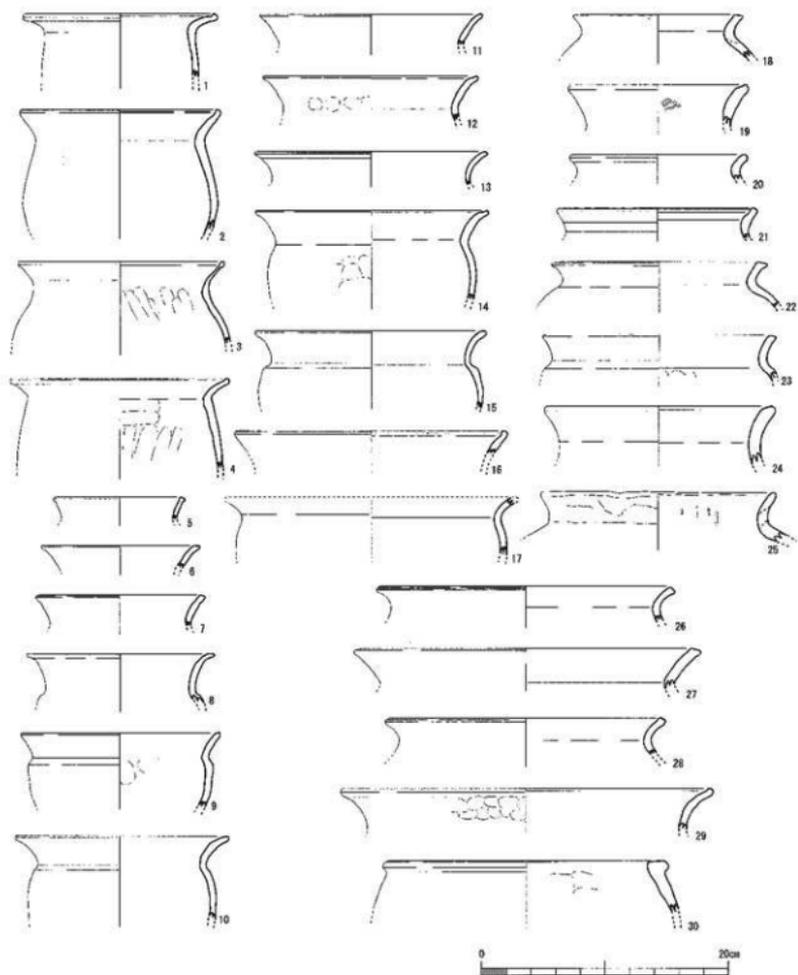


图26 2区 出土土師器 甕 (表13)

表13 2区 出土土師器 彙

発掘 番号	発掘 番号	出土地点	器種	種類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土質			色 澤		胎土	備考	
									外蓋	内蓋	底面	外蓋	内蓋			
1	149	2区 b4 4A層下	甕	土師器	8C	(15.8)	不明	残存高 (5.0)	ナグ ナグ	不明	不明	赤褐色	赤褐色 (やや薄)	赤褐色	良	
2	38	2区 b3 4B層 SK145	甕	土師器		(16.2)	不明	残存高 (1.5)	ナグ 体部ハケ	ナグ、口縁部ハ ケ後ナグ	不明	赤褐色	赤褐色 (やや薄)	赤褐色	良	
3	296	2区 b1 4A層 SK152	甕	土師器		(16.4)	不明	残存高 (6.4)	不明	不明	不明	赤褐色	暗褐色	赤褐色	良	
4	305	2区 b4 4A層下	甕	土師器		(17.3)	不明	残存高 (1.7)	横ナグ ハケ	横ナグ	不明	淡褐色	暗褐色	暗褐色	良	
5	343	2区 b4 4A層	甕	土師器	9C	10.6	不明	残存高 (1.7)	横ナグ	横ナグ	不明	薄灰褐色	淡褐色	淡褐色	良	
6	213	2区 a3 3A層 4B層下	甕	土師器		(12.9)	不明	残存高 (1.8)	横ナグ 横ナグ	ナグ 横ナグ	不明	明赤褐色	明赤褐色 (やや薄)	明赤褐色	悪	
7	365	2区 b4・5 4A層 SK112	甕	土師器		(13.6)	不明	残存高 (2.5)	ナグ	ナグ	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	良	
8	47	2区 b5 4B層 SK234	甕	土師器		(15.2)	不明	残存高 (4.0)	ナグ、口縁部 ハケ後ナグ	ナグ	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	良	
9	171	2区 b3 4A層下	甕	土師器		(16.0)	不明	残存高 (6.0)	ナグ	ナグ	不明	赤褐色	明赤褐色	赤褐色	良	
10	23	2区 b4 4B層 SK206	甕	土師器		(17.4)	不明	残存高 (6.6)	ナグ	ナグ	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	良	
11	311	2区 b4 4A層下	甕	土師器		(18.2)	不明	残存高 (3.5)	横ナグ	ナグ	不明	淡褐色	淡黄褐色	淡褐色	良	
12	101	2区 b4 4A層下	甕	土師器		(17.4)	不明	残存高 (3.2)	ナグ	ナグ	不明	明赤褐色	赤褐色	明赤褐色	良	
13	292	2区 4層中6月	甕	土師器		(19.0)	不明	残存高 (2.6)	ナグ	ナグ	不明	赤褐色	暗赤褐色	赤褐色	良	
14	139	2区 b3 4A層下	甕	土師器		(18.2)	不明	残存高 (7.2)	横ナグ	横ナグ	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	良	
15	5	2区 b5 SK213	甕	土師器		(18.9)	不明	残存高 (5.2)	横ナグ、口縁部 ハケ後ナグ	横ナグ	不明	明赤褐色、底面 明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	良	
16	318	2区 b4 4B層 SK114	甕	土師器		(22.2)	不明	残存高 (1.8)	ナグ	ナグ	不明	赤褐色	赤褐色	明赤褐色	良	
17	303	2区 b4 4A層下	甕	土師器	銅鍍	(21.1)	不明	残存高 (4.7)	不明 遺跡	ナグ	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	良	
18	345	2区 b5 4A層	甕	土師器		13.5	不明	残存高 (3.3)	不明	不明	不明	黄褐色	暗褐色	暗褐色	良	
19	186	2区 b5 4A層下	甕	土師器		(14.6)	不明	残存高 (3.4)	ナグ	ナグ	不明	明褐色	灰色	灰色	良	
20	87	2区 a1 4B層下	甕	土師器		(14.4)	不明	残存高 (2.0)	ナグ ミダキウ	ナグ ミダキウ (密紋)	不明	黄褐色	黄褐色	赤褐色	良	
21	207	2区 b4 4B層 SK115	甕	土師器	古代V	(16.2)	不明	残存高 (3.5)	ナグ	ナグ	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	良	
22	199	2区 a2-3 4A層下	甕	土師器	9C	(17.4)	不明	残存高 (3.7)	横ナグ	横ナグ	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	良	
23	331	2区 a2 4B層 SK235	甕	土師器		(19.4)	不明	残存高 (3.0)	ナグ	ナグ 附土痕	不明	明赤褐色	明赤褐色 (やや薄)	明赤褐色	良	
24	200	2区 a2-3 4A層下	甕	土師器		18.8	不明	残存高 (5.8)	不明 密紋	不明 密紋	不明	薄赤褐色	薄赤褐色	薄赤褐色 (やや薄)	良	
25	322	2区 b5 4A層 SK111	甕	土師器		(18.8)	不明	残存高 (4.0)	ナグ	ナグ	不明	赤褐色	薄赤褐色	薄赤褐色	良	
26	149	2区 b4 4A層下	甕	土師器		(24.2)	不明	残存高 (2.6)	ナグ	ナグ	不明	明赤褐色	明赤褐色 (やや薄)	明赤褐色	良	
27	119	2区 b3 4A層	甕	土師器		(23.7)	不明	残存高 (3.25)	ナグ、口縁部 ハケ後ナグ	ハケ後ナグ	不明	赤褐色	薄赤褐色	明赤褐色	良	
28	197	2区 a2-3 4A層下	甕	土師器		(22.7)	不明	残存高 (2.7)	ナグ	横ナグ ミダキ	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	良	
29	118	2区 b3 4A層下	甕	土師器		(30.0)	不明	残存高 (3.5)	ナグ	ナグ	不明	赤褐色	黄褐色	赤褐色	良	
30	254	2区 a1 3B層 SK101下	甕	土師器	甲申	(23.8)	不明	残存高 (4.0)	ナグ	ナグ	不明	薄赤褐色	薄赤褐色	薄赤褐色	良	

※() 内数字は反転焼成後の数値

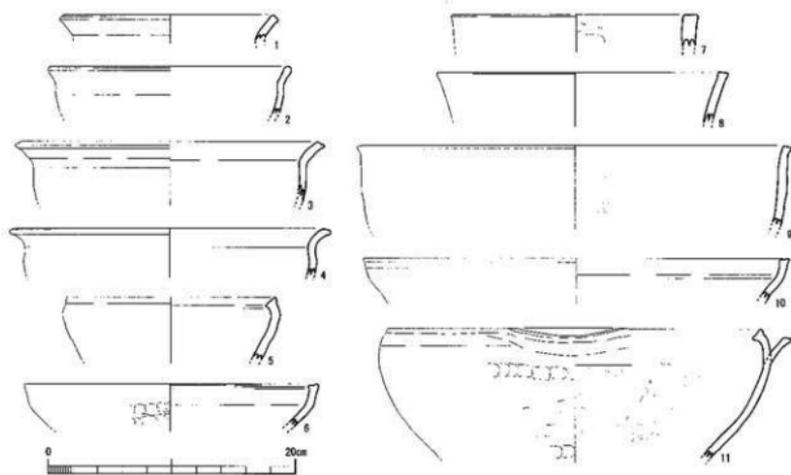


図27 2区 出土土師器 鉢 (表14)

表14 2区 出土土師器 鉢

発掘番号	登録番号	出土地点	器種	種類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	図 型			色 調			出土	採域
									外蓋	内蓋	底面	外蓋	内蓋	断面		
1	242	2区 b7 30 西	鉢	十師器	9C	(17.8)	不明	残存高 (1.8)	ミガキ	ミガキ	不明	明赤褐色	明赤褐色	赤褐色	密	長
2	219	2区 b1 30 西	鉢	十師器		(19.8)	不明	残存高 (3.8)	ナブ	ナブ	不明	薄灰色	薄灰褐色	薄灰褐色	密	長
3	281	2区 b4 4A 屋下	鉢	十師器		(25.0)	不明	残存高 (4.9)	ナブ	ナブ	不明	暗赤褐色	暗褐色	暗褐色	密	長
4	76	2区 b6 4B 屋下	鉢	土師器		(26.0)	不明	残存高 (3.78)	ナブ	ナブ	ナブ	暗赤褐色	赤褐色	赤褐色	密	長
5	6	2区 b4 4B 屋下	鉢	土師器		(16.8)	不明	残存高 (0.9)	ナブ、口縁部 へツ削り	ナブ	不明	暗赤褐色	暗赤褐色	赤褐色	密	長
6	208	2区 b4-3 4B 屋下	鉢	土師器		(23.7)	不明	残存高 (3.9)	ナブ	ナブ	不明	暗赤褐色	暗赤褐色	赤褐色	密	長
7	133	2区 b3 4A 屋下	鉢	十師器		(19.7)	不明	残存高 (2.4)	ナブ、口縁部 へツ削り	ナブ	不明	暗赤褐色	明赤褐色	赤褐色	密	長
8	127	2区 b3 4A 屋下	鉢	十師器		(23.4)	不明	残存高 (4.0)	ナブ、口縁部 へツ削り	ナブ	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	密	長
9	350	2区 b3 4 西	鉢	十師器		(31.8)	不明	残存高 (6.4)	ナブ	ハケ塗ナブ		暗赤褐色	暗赤褐色	暗赤褐色	密	長
10	88	2区 a1 4B 屋下	鉢	土師器		(34.3)	不明	残存高 (3.9)	ナブ	ナブ	不明	褐色	暗褐色	褐色	密	長
11	242	2区 b1 4B 屋下	鉢	十師器		(30.0)	不明	残存高 (10.7)	体部へツ削り	ミガキ	不明	暗赤褐色	黒っぽい 赤褐色	暗褐色	密	長

※() 内蓋裏付け加復元後の状態

第4章 まとめ

以上のごとく、検出した各遺構面において、それぞれの所見を得ることができた。

大きく1区は5面、2区は1区より第3遺構面が発達するため、掘削深度との関係からそれより少なく、主だった面としては4面の調査となった。

中でも、特筆できるものに第4遺構面の掘立柱建物群がある。これらは整地の分離から、大きく3期に分けてとらえることができる。出土遺物からすれば全体に長岡京期前後のものが目立つが、その存続時期は7～10世紀にかけてと考えられる。その詳細は、1区の須恵器杯で7世紀初め頃のものもあるが、連続性から言えば、1区が相対に古く、7世紀中葉以降、8世紀からは1・2区両区で確認できるようになる。出土量からすれば、8世紀末から9世紀中葉にかけてのものがすこぶる顕著である。

最も古い1期は第5層の砂が微高地状に北西方向に張り出す1区を中心に確認できるが、削平がはなはだしい。掘方は一辺0.6m前後の長方形気味のもので、地形に合わせるためか北西—南東方向に軸を振り、柱間は1.5～2.3mである。

2・3期はわずかに東に振る程度で、南北軸にそろった方形の掘方である。2期は3期に比べ、掘方は一辺0.6～0.8m前後と大きく、柱間は1.9～2.1mである。2区の南東隅で検出した通り柱には、同じ建築材を分けて礎板として用いる。この期の屋敷地の整地範囲は図にある通り、南北65mで東に拡がり、砂を主体とする。これに伴い、1区では南・西を、2区では北を区画する溝を検出しており、最も深い2区東西溝の東側では0.45mある。こうした溝は埋没後も同様な位置で井戸・土坑・落ち込みといったものの掘返しがある。

3期は一辺0.6mやや小ぶりの掘方で、柱間は1.8～2.2mである。2期の区画より、主に西辺を10m程、張り出させて整地することで拡張する。これに伴う特徴は、2区東側、整地区画の北西隅において、軟弱な粘性の高い粘質シルトがベース面であったためか、2期整地範囲の外縁に5～10mにわたって主に8世紀の土師器・須恵器・瓦片を中心として、それらをバラス代わりに敷いた状況で出土していることである。

このことから、初期の建物群は2区までは広がらないことが分かり、それぞれ1～3期に及ぶ屋敷地の変遷を追える。2・3期の間にも、2期西辺両隅の溝上にも遺構が重なることから、徐々に敷地を拡げていったことがうかがえる。センター調査分の第4b面掘立柱建物はこの上部で検出され、掘方内出土遺物から廃絶は9世紀中頃である。今回調査分の掘方形状からも2期は9世紀前半、3期は9世紀中葉～後葉を中心としたものと考えられる。また、1期は整地土内出土遺物より、8世紀後半を中心とするであろう。(・瀬)

調査の実施及び報告書作成にあたっては、藤川富久子、中山陽子、上野恵己、岡村まり江、田之上裕子、小倉 勝、富田卓見、奥村弥恵、澁谷裕美、大矢祐司、小野木ルリコ、高嶋千佳、田中真希代、松村祐香をはじめとする諸嬢・諸氏の協力を得た。

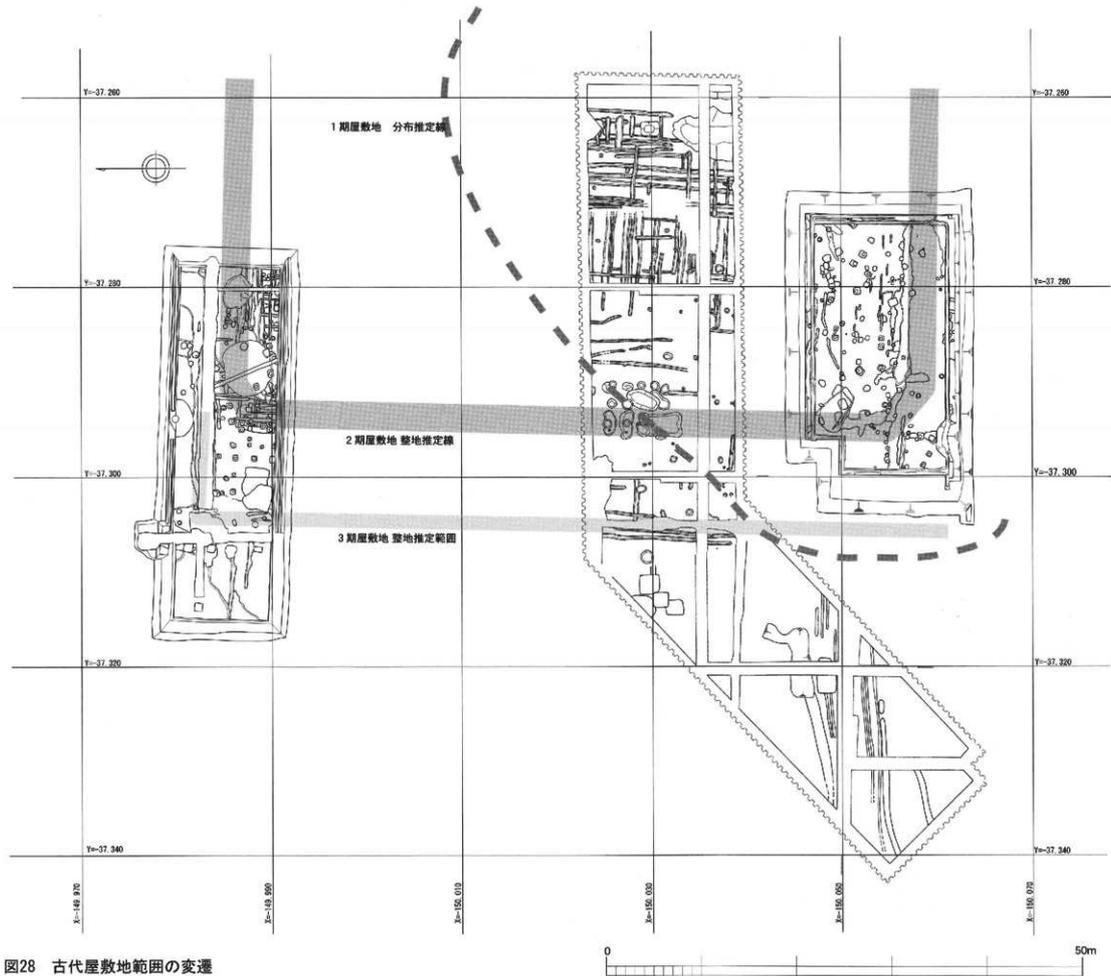


図28 古代屋敷地範囲の変遷

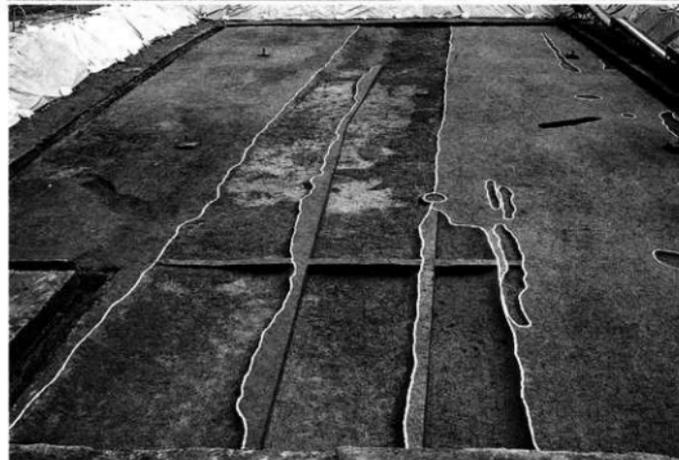
写 真 图 版



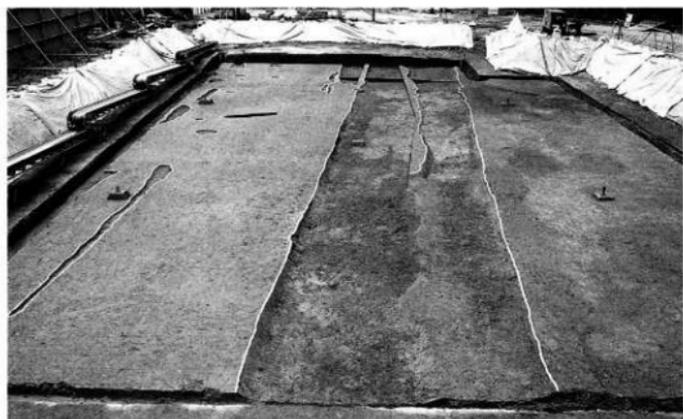
南壁中央
(北から)



第3遺構面C
(西から)



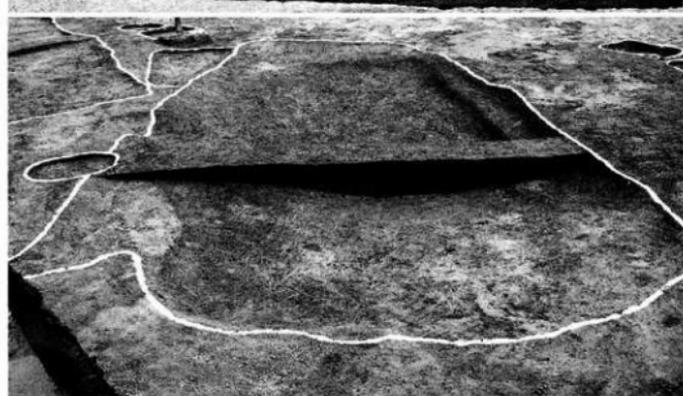
第3遺構面D
(西から)



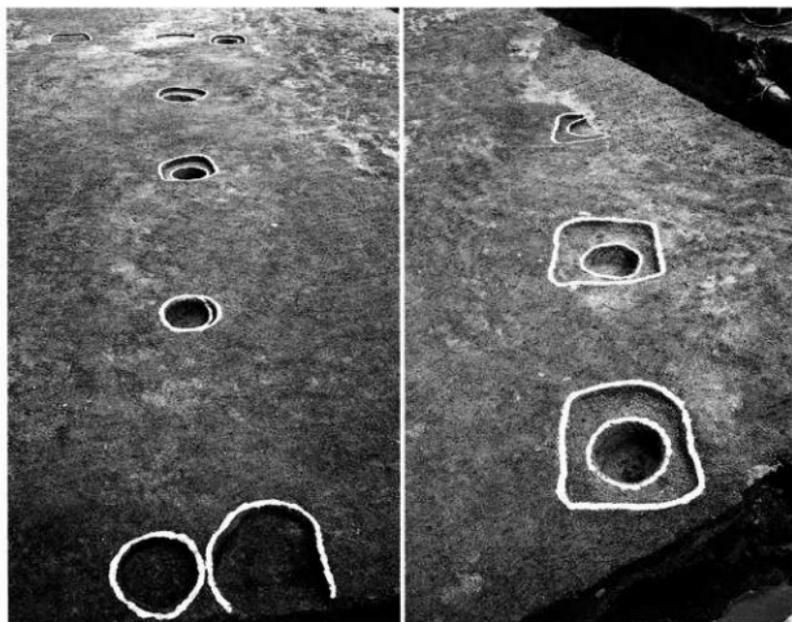
第3遺構面D
(西から)



第4遺構面A
(東から)



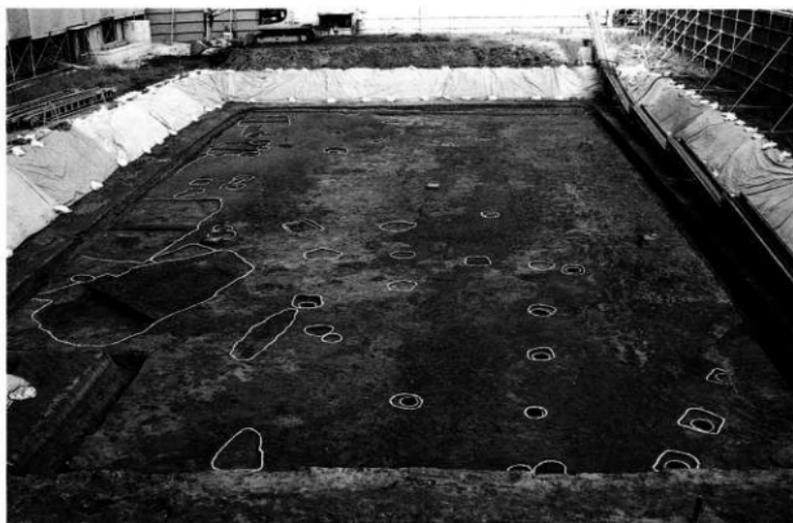
第4遺構面B
土坑38
(北西から)



第4遺構面B 掘立柱列 P59・60・25 (西から) 第4遺構面B 掘立柱列 P23・24・76 (西から)



第4遺構面B (東から)



第4遺構面B(西から)



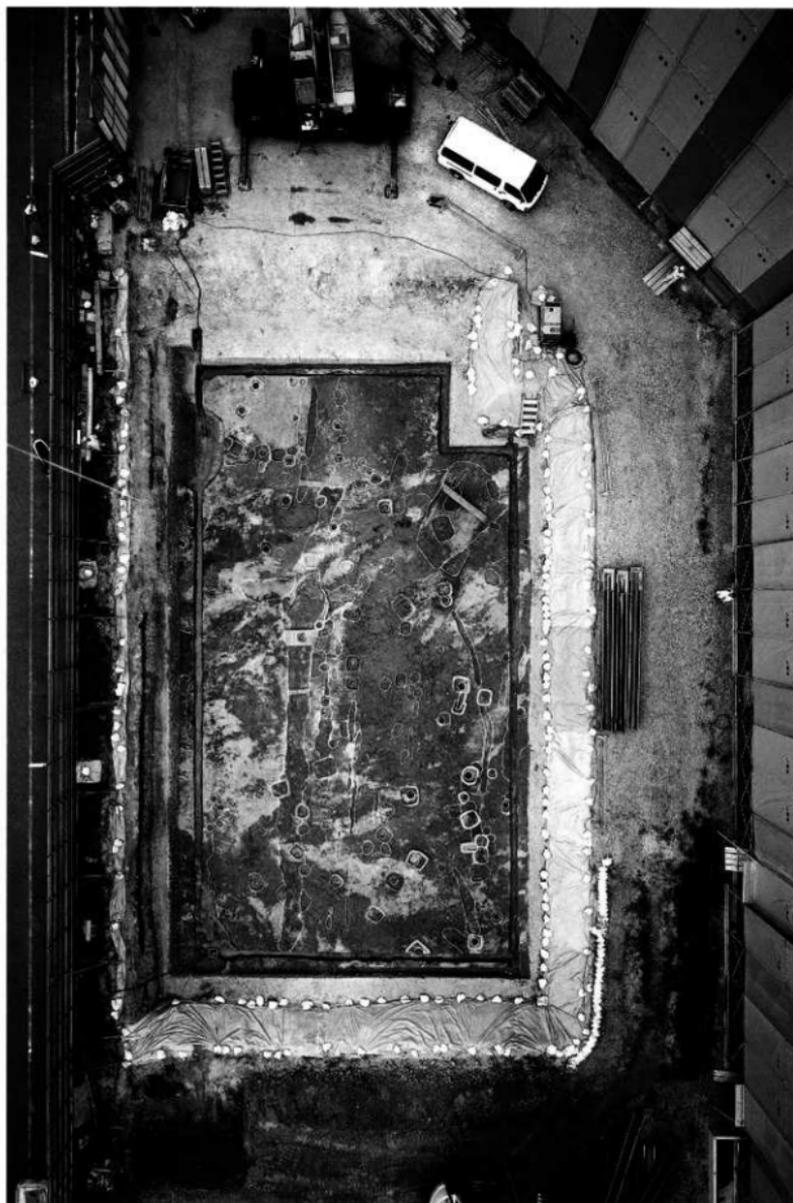
第4遺構面D(西から)



第4遺構面D (西から)



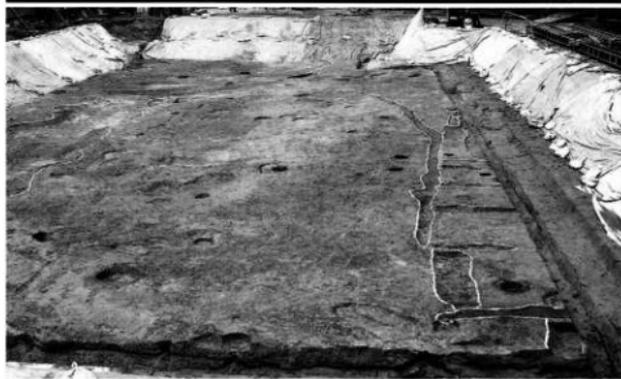
第4遺構面B
SE22 (北から)



第4遺構面D(西から)



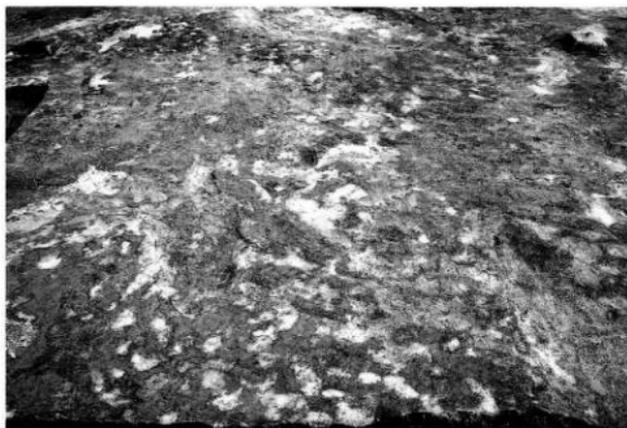
第4遺構面C
SD63 (東から)



第4遺構面F (東から)



第5遺構面A
(南東から)



第5遺構面B 足跡
(西から)



第5遺構面B西半
(南から)



第5遺構面B東側
鋤跡 (南から)



第5遺構面C中央（北から）



第5遺構面C（西から）



第5遺構面D西側
（南東から）



1区第5遺構面D
流水層（東から）



2区南壁中央
（北から）



2区第1遺構面
（東から）



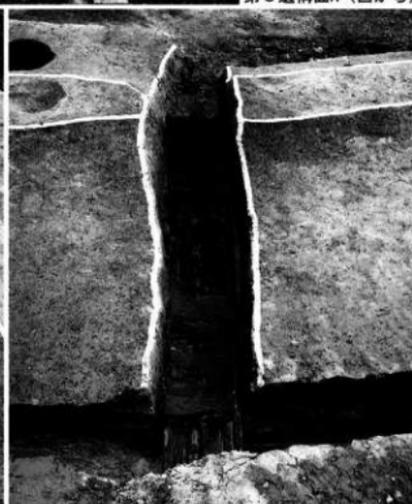
第2遺構面A (西から)



第3遺構面A (西から)



第3遺構面A SE120 (北西から)



第3遺構面A 木樋暗渠 (北から)



第3遺構面B (西から)



第3遺構面C (東から)



第3遺構面C下面
(東から)



第3遺構面C下面下層（西から）



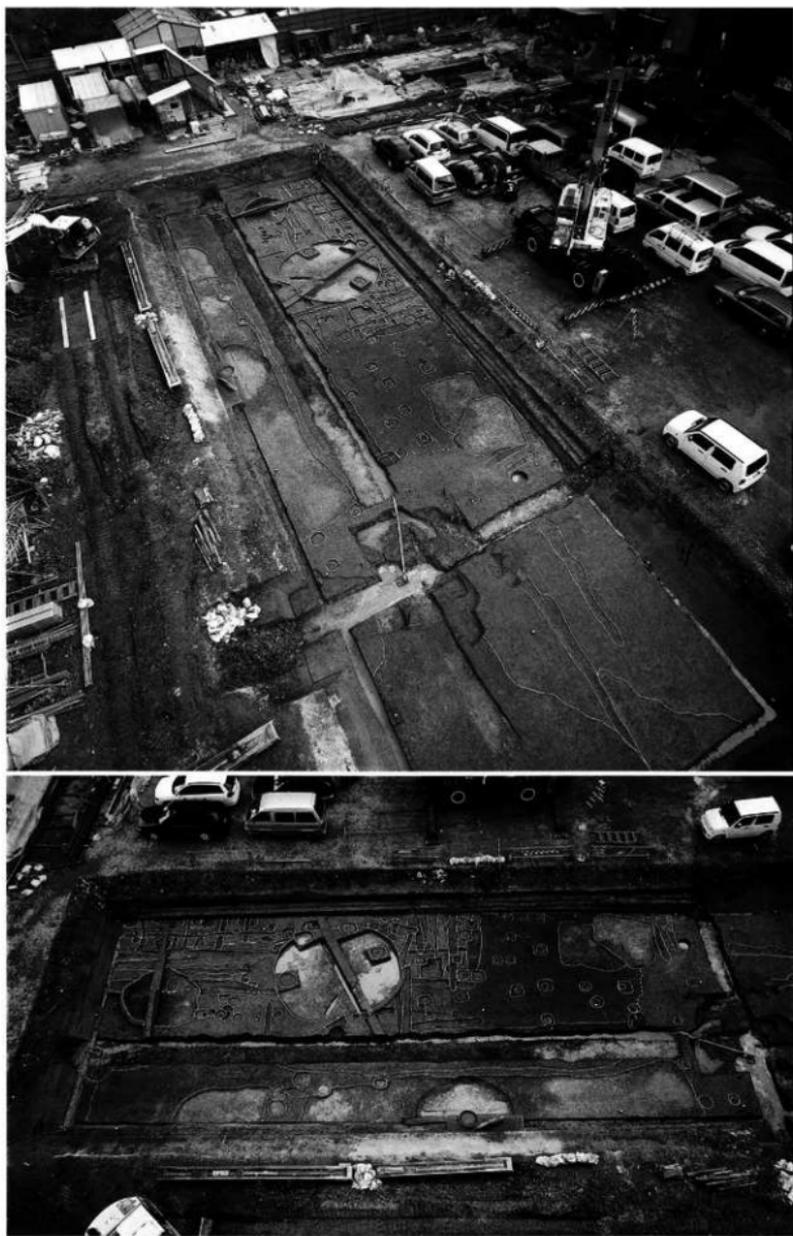
第3遺構面C下面東側下層（東から）



第4遺構面A東半検出状況（西から）



第4遺構面A（垂直写真）



第4遺構面A（上：西南西から、下：南から）



第4遺構面A東側（北北西から）



第4遺構面A中央（北から）



第4遺構面A西側（北東から）



第4遺構面A（東北東から）



第4遺構面A(東から)



第4遺構面A中央
掘立柱建物上面
(南から)



第4遺構面A中央
掘立柱建物掘下げ
(南から)



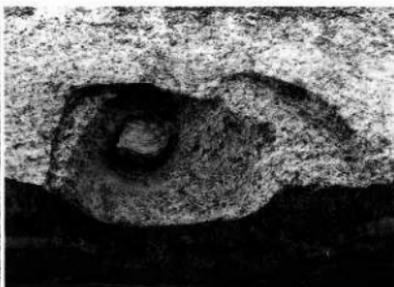
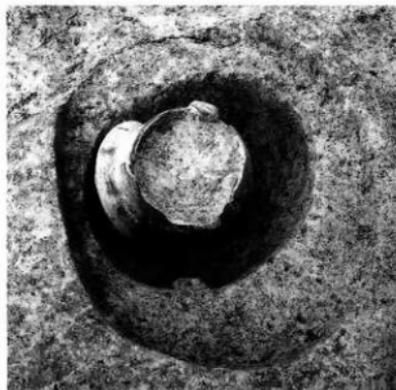
第4遺構面A東側 東西溝（東から）



第4遺構面B東側 掘立柱建物（東から）



第4遺構面A東側 掘立柱礎板（南から）
上：P204、下：P240



第4遺構面B 中央 掘立柱内遺物出土状況
(東から)



第4遺構面A中央 掘立柱断割り状況と第4遺構面B (北から)



第4遺構面B (西から)



第4遺構面B（西から）



第4遺構面C（東から）



第5遺構面（東から）

報 告 書 抄 録

ふりがな	しんかみこさかいせき							
書名	新上小阪遺跡							
副書名	府営東大阪新上小阪住宅建替（第1期）地下雨水留槽工事に伴う調査							
巻次								
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	2005-7							
編著者名	一瀬和夫・大矢祐司							
編集機関	大阪府教育委員会 文化財保護課							
所在地	〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前2丁目 TEL.06-6941-0351							
発行年月日	2006年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査 面積	調査原因
しんかみこさかいせき 新上小阪	しんかみこさかいせき 東大阪市新上小阪	27227	163	34°36'49"	135°35'35"	2003年6月26日 5 2003年11月16日	1212㎡	府営住宅 (建替)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新上小阪	集落	古代 中世 近世	古代：溝、ビット、落ち込み、井戸、土坑、掘柱建物 中世：溝、ビット、鳥居 近世：溝、鳥居	古代：黒色土器、土師器、須恵器、磚、瓦 中世：土師器、瓦器、瓦、陶磁器 近世：土師器、陶磁器、瓦	南東部の微高地を中心とした古代の埋蔵地の形成。掘立柱建物、それ囲う溝。土器片などを利用した整地層も見られた。

新上小阪遺跡

府営東大阪新上小阪住宅建替（第1期）地下雨水留槽工事に伴う調査

発行 大阪府教育委員会

〒540-8571 大阪市中央区大手前2丁目 TEL.06-6941-0351

発行日 2006年3月31日

印刷 株式会社 中島弘文堂印刷所

大阪市東成区深江南2丁目6番8号 TEL.06-6976-8761

